大和名所圖會

葛上郡　宇知郡
高市郡

五

ル 4
6321
5

仕定

大和名所圖會卷之五

葛上郡　宇知郡　目録

葛城山　一言主社　石橋　金剛山寺　朝原寺　石寺
高天寺　鯽鮒窟　高天彦社　松原井
極楽寺　舩丘　朝妻山　葛木沈
故葛木寺　伏見社　菩提寺　壺井
風森　櫻井　細井　中位寺
高鴨社　御歳社　多田社　長柄社
水分社　高丘廟　橿原宮　腋上嶺間岳
芽原寺　孝安天皇陵　白鳥陵　彈琴原
沈心宮　葛城川　巨勢社　大倉社
巨勢邪　今木雙墓　大穴持社　多武川

高市郡

JL4 6321 5
<2000-324>

鴨都波社　来迎寺　戒那ゝ　鴨ゝ口社
小明原　千塚　重丘　大重社
室ゝ山　吾妻社　室秋津島宮　孝昭大皇陵
磐余若櫻宮　阿多大郡　阿陀社　阿陀墓
龍宮窟　榮ゝ寺　後阿陀墓　後京長岡宅
小鴻城　宇豆彦親治宅　龍池社　庶人墓
月見寺　王墓　楯井　鳳凰寺
高天社　一尾背社　霹靂社　觀音寺
荒木社　宇智社　矢田畠笠辻　御霊社
良峯寺　丹生川　丹生川社　吉祥院
宇智陵　火雷社　二見城　多澤川
二見社　統社　櫻井寺　櫻井
中村社　安井寺　上村城　神福ゝ

大澤川　佐々雄社　大澤寺
蓮華寺　真土ゝ山　戸立ゝ
高市社　大飼寺　内大郡
吉野川渡口　狭嶺ゝ山　高市
穴師武川　鴨事代主社　秀泉井
来原井　廢薬師寺　田中宮
石川廢精舍　孝元大皇陵　田見池
廢大官大寺　豊浦池　耳樫社
廢巌寺　難波堀江　穴師我入鹿節
輕池　廢輕寺　曲峡宮
豊明宮　檜隈陵　廢川原寺
畝割塚　春井　古墳　石燈爐　厩阪　厩阪宮　日沈
飛多社　日井　板蓋宮　川原寺

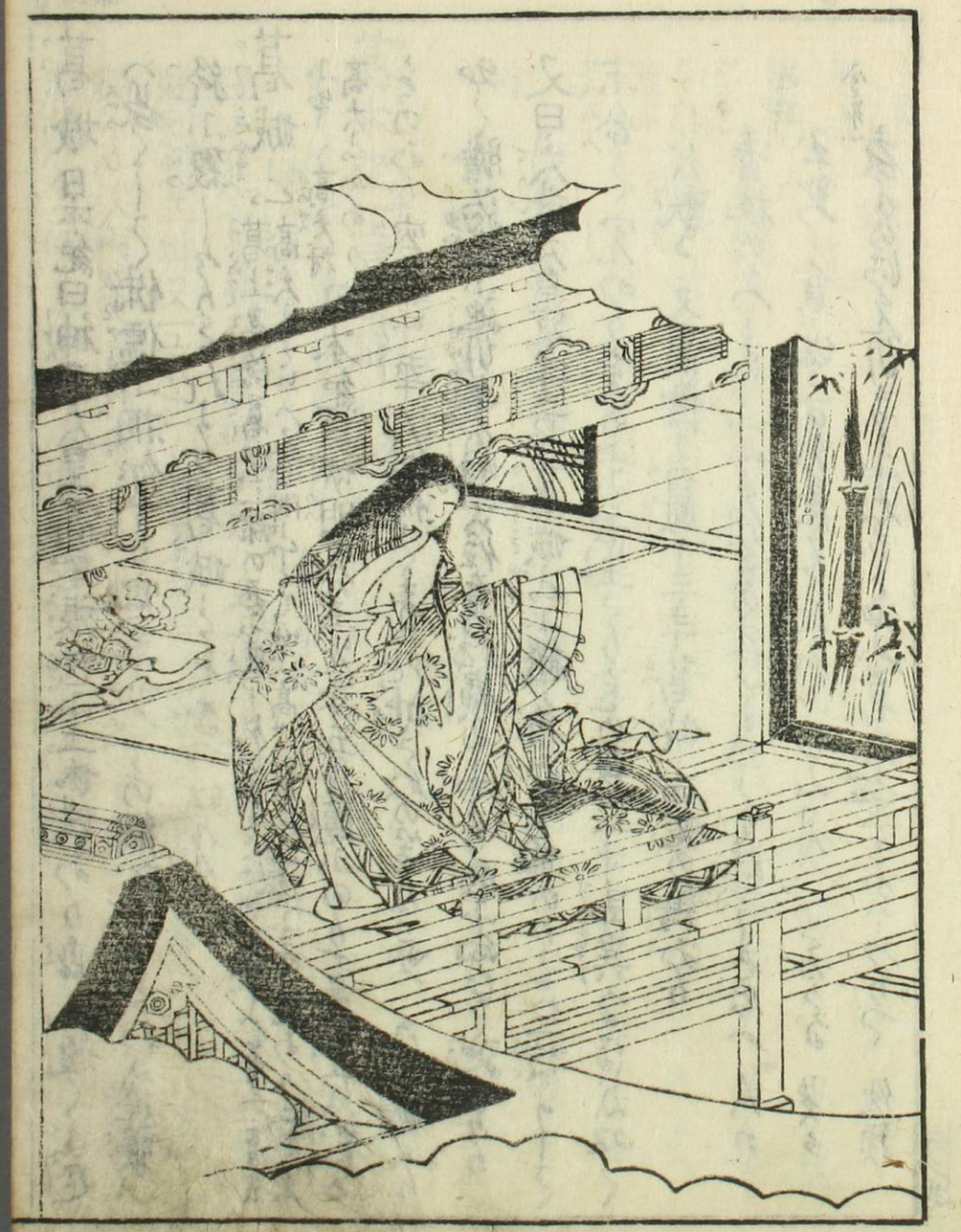
楊貴氏墓　角田川
安日寺　國分寺
跨栖社　馬立社
大野丘塔　味櫃丘
小網田宮　境原宮
橋寺　神名備ゝ山
飛多寺

飛鳥社
飛鳥川
雷丘
藤原
後京宮御井
佛陵山
氷室跡
加茂原社
菊潭生墓
勾池
後園
遊園
檜前川
遠飛鳥社
飛鳥里
矢鉤山
大織冠第址
袁通嬢家址
氷室址
滑谷陵
金剛寺
龍福寺
真名池
逝田丘
倭彦命墓
於美社
飛鳥山宮
七瀬淀
八鉤宮
法光寺
澤御原
和既社
大仁保社
都塚
田麿第
嶋宮
岡本宮
鬼厠
欽明天皇陵
荒塚
大國社
大原
後井原
細川山
塚原
南淵山
飛鳥川上社
吳津社
岡寺
治田社
鬼肉凡
文武天皇陵

子島社
五百羅漢石
子嶋寺
重阪川
真弓陵
宣化天皇陵
益田池碑銘
安寧天皇陵
畝火山
大窪廢寺
神武天皇陵
天高市社
太王命社
靈鷲寺
曼陀羅石
竹原
櫛玉社
許世都社
鳥坂社
久米社
綏靖天皇陵
畝火社
高市社
宗我都社
池黄邑
川俣社
高生社
鷹鞭山
波多社
真弓丘
齊明天皇陵
石椋小墓
久米川
久米寺塔中銘
懿德天皇陵
井谷井
蘇我の原
人麿社
稲代社
壺阪寺
高取山塚
佐田丘
越墓
巨勢山社
牟佗社
輕樹社
鬼頭田
娘子塚
御陵山
小綱邑
金橋宮
天神社

長法寺　法器山寺　菅丞相山莊

新古今
よゝ行くふのこゝろんてゝ
ゆみゝゝん蒼城や
えるゝゝゝゝ山れ
岑りの白雲
漢人ちゝゝ



葛城　日本紀曰神武天皇高尾張邑に土蜘蛛あり身を縮くして足
はゝ長くして侏儒に相似たり官軍皆これを網をもつくりて
殺しうちたりより葛城と名つけたる
葛城山　葛上忍海葛下二郡の西に連なる峯にて俗に鍬一峯と
云高天山　又金剛山高サ二百丈山頂に寺院あり山脈東
に高天村あり　日本紀曰欽明天皇元年五月龍に乗て虚空に昇
りたまのあり容貌中華人に似て青丹色なり其髪三尺
生て膳部臣の祖に託て宣たまはく我は葛城の神なり
又曰天武天皇九年二月葛城山に鱗角あり角のもとに二枝ありて
其色紫にして光沢あり毛生て毛の長さ二寸即異なる瑞なり
又昌御宇白鳳十三年葛城山西足の鵄あり
青柳のうへにとまりたるを妹子臣人見
玉四つ葛城山のわ系にて西紀ふのみ見へてあるる　美々
金系
夜ほのぼのと明まに山まに月ありて　後頼

千載
葛城やうらのゝ山に桜花さきのよそほひみてやこえなん　俊頼
新古今
つくるやたゆの桜さかりなりしたのおくにはいかにさきけん　寂蓮法師
新勅撰
こゝにはたゝ春しるしなれとこゝろ　藤原為家
同
春もとゝゆる葛本山のいろつくしむ都の春のあけぼの　後京極
續古今
さくらはなゝかりのゝ山のこゝろをもとめてこゝろ　家隆
同
白雲やかゝる上にはかりなんこゝの山　順徳院
同
葛城やうきはしの花さかりなるかたをかたるる　有家

葛本坐一言主神社　寛文記曰葛城大明神一言主と云女神なり　俗に
なりの山と云の嶽に宮居しまつる　舊事紀葛本一言主神倭國葛上郡
の田の中にいますとあり　長柄豊田宮ノ寺田多田五ケ村の氏神なり
坐主素盞嗚尊神社森脇村にあり
速刺利主神又一言主と云日本紀曰雄略天皇四年十六年
朽しのゝ一言主神生て天皇と共に猟をなす蛍となりて
逐て夕陽に及ぶの時田公罷て天皇に来問水に逐て今は村民

ことくく有德の天皇と称賞じ給ふ 當社の延喜式神名帳出 一言主神は孔雀明王
と号し 社記 葛城の神ともいへり 是を拝一言主神は一説に大空通菩薩
時銀高彦根命の 釈日本紀 葛城山の東下高宮岩上にむかひて鎮まる雄略天皇
御狩の時一言主神出くて天皇と共に獵をとる〳〵田一の人皇王に顕はれ
神と主佐國にうりまうす其後天平寶字八年従五位上に叙せ給ふ 佐國
しの人なり信用せざるゝ四説伝とて説に脱に續日本紀にあり 神階 當国の親元年
正月廿七日葛城一言主神を従二位に叙せ給ふ 三代実録に見へたり
岩橋の夜は契もなかしわるる袖しほれぬ
續古今
若くいの呂一言主神の宮に詣でゝ
續後拾遺
ひかりくさの神を通ひくてなれらんとするくみゆる夏のうたた寝
賜従二位
支木
葛城の山とも聞して葛城山の人もしらるゝけふる 顕昭
なまことの山を聞して葛城山のかりとそとるふしことの
花さくるふしの紫くさをみるとかの花ーたにて
絶るふしの神のくらちあ〳〵と人伝れを
猶つんくーと花ふりのり 神の顔

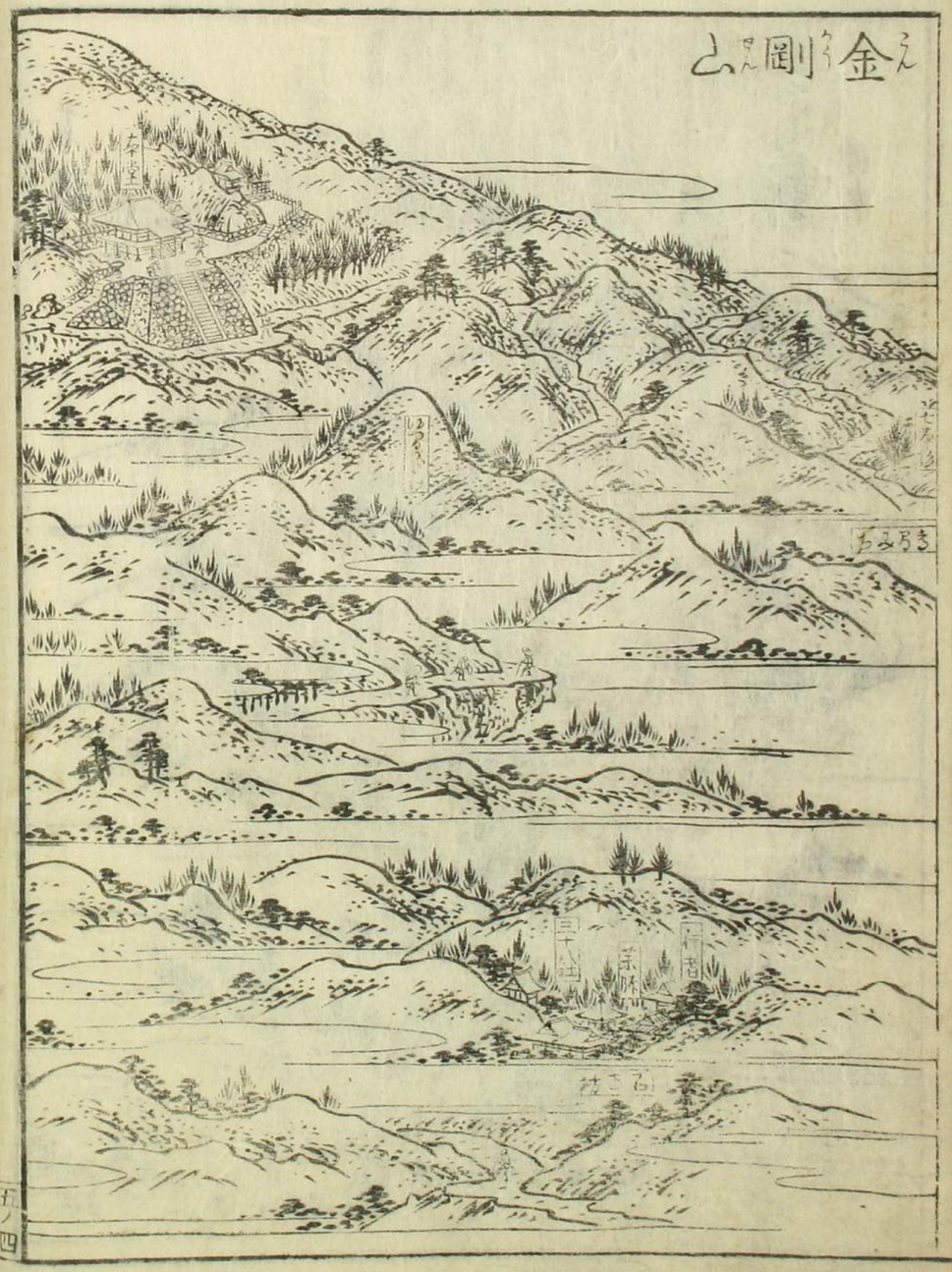
葛城山
朝原
石寺
高天寺

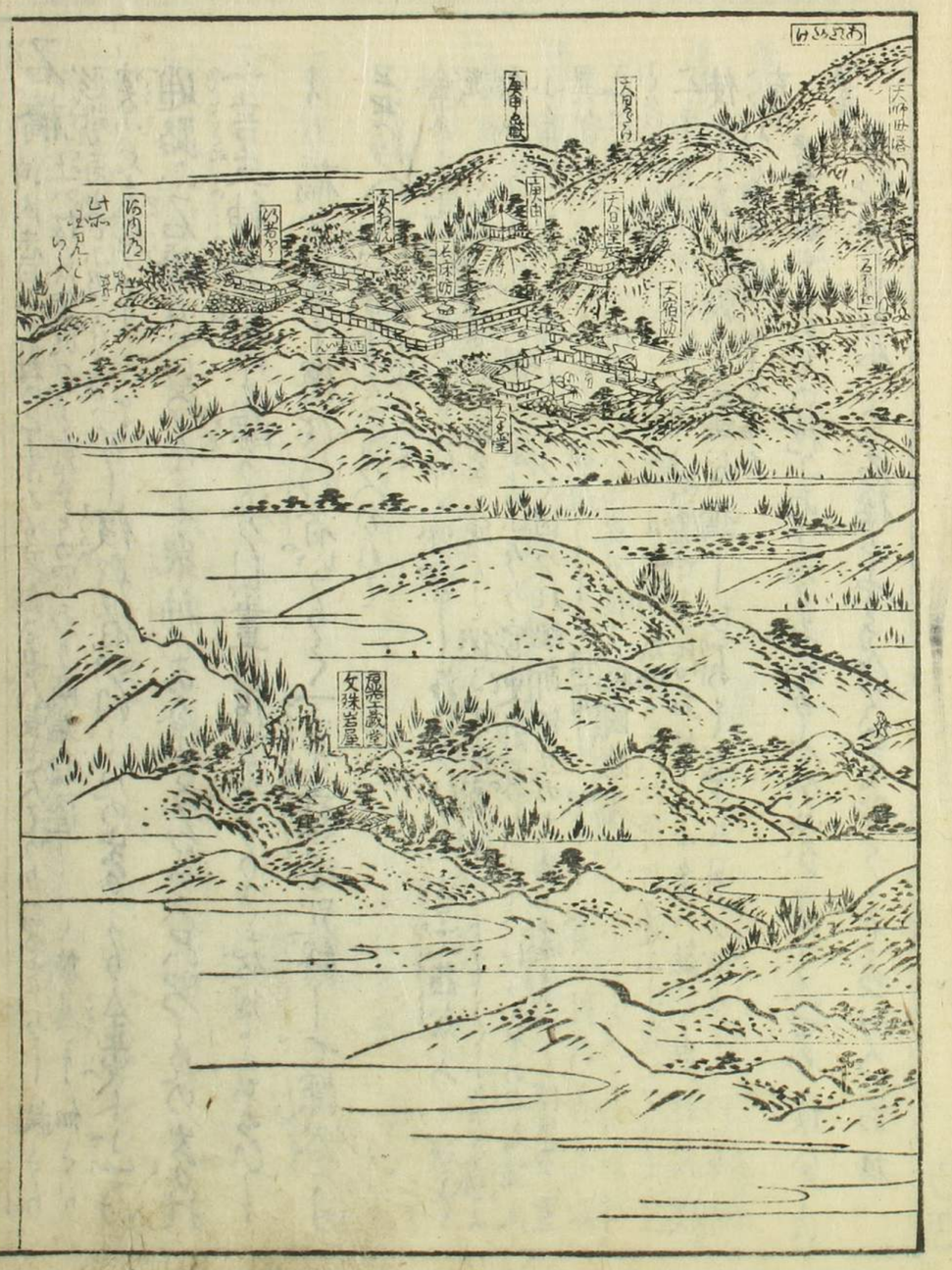
望葛城山 古詩體

葛城山上白雲遍
萬古千秋白日懸
云是昔人飛仙路
只今何處覓神仙
連山東南対天嶽
拱地西北朝中天
往昔伝是葛北斗
元弘天子下殿走
繚垣南山走行宮
谿谷關門分隘守
曾是宸襟賞奇勝
維南有木接天日
英雄心事希諸忠
誰知管葛期儒臣
紆帶峰巒據葛城

下畧

南郭


金剛山


願主藏堂
文殊岩屋

石橋　河内志曰平石村の山上にあり其闊二尺五寸長七尺五寸ばかり右の傍にかし鉄あり加ふるに上は板の架けたるごとく下はもとの四ツあり両端稍隆して礎基あり形勢荊棘に及んでは実に足る人迹なり　むかし役の行者かづらきの峯より金峯山へ通路に石橋をかけんとて衆神にこの命をうけ給ふ、かづらきの峯の一言主神容貌いと醜かりければ昼の役をはぢらひて夜のみかよひしより橋なかばにして渡し得ず行者いかりて一言主神を呪縛して深谷へ落し給ひし　此の事書々に見えず侍れど大意を述るのみ

金峯山記曰役小角は一言主神を縛繫し給ひければ一言主怨をふくむ。むかし讒じて曰役優婆塞は国家を傾んと謀る文武帝勅を下して小角を召す忽然として空に騰りて飛去りぬ官吏計略なくてその母を捕ふ小角己ことを得ずして囚はれ配所伊豆の大嶋に遠流せらる伝曰志富の霊異記にも見えたり是非説なし。かつて信用し難し実は役行者葛木山に住して呪術をもつて外従五位下韓國連廣足といふ人その小角を師として後其能を害して帝に妖惑を吐き大に讒す遂に小角を文武天皇三年五月伊豆の大嶋へ配流せられけるが小角は能く鬼神を使ひ使して水を汲ませ薪を樵しむ用ひざるものは呪縛をしと云云

古今
葛城やくめぢの橋にあらばこそおもはんことをなかぞらにせめ　読人志らず

後拾遺
中たゆる葛木山の岩橋はふみ見ることもかたくぞありける　相模

千載
葛城や渡しもはてぬ物ゆゑに久米の岩橋苔生にけり　俊頼

同
かつらきやくめぢにわたす岩橋の絶にし中となりやはてなん　能宣

続後撰
葛城や夜るの契の岩橋や絶て通はぬたぐひなるらん　中納言資季

続古今
葛城や渡しもはてぬ岩橋も夜の契はありとこそきけ　家隆

同
かつらきの夜の契もかくるゝをふみぞまよふぞ岩はし　匡房

続千載
葛城やくめの岩橋中たえて今は人の契なげかし　冷泉太政大臣

新千載
山風に雲のゆききやさえぬらん夜はくる月の葛城のはし　後九条内大臣

同
わたるや久米路の橋も中絶てわたしもはてぬ葛木の神　実方

旧事紀曰天瓊矛のさきより滴瀝こりて磤馭盧嶋となる今大日本国なり霊山なりといへども此霊山は金峯葛城なりと纂疏宝山記にも見えたり

神皇正統記云花厳経曰東北海中有處名金剛山従昔已来諸菩薩衆於中止住現有菩薩名曰法起與其眷属諸菩薩衆千二百人俱常在其中而演説法云云是大和國の金剛山なり

新千載
かけ〳〵の
神るゝね
くも
天川
あくまで
俤しの
かさ〳〵
さの
橋
後嵯峨院

ゆめとい
をつき
庚を
踊るる
支考

金剛山寺 葛城の山頂にあり大和志日正堂一宇小祠二宇本例小屋にて六絵ハみな山列に隷ゝ東北ハ則朝原ち東南ハ則石寺舊名諸石岡と一名神祇宇山又名一乗峯又名金剛峯又名縛日羅獨尊酉誉記 又大日本日高見國 是ハ日神所化より此名あり 葛城宇山記

本堂ハ法起菩薩不動明王藏王権現の三尊 役小角の所化なり

正月三ヶ日大峯八大金剛童子ハ供物をそなへ葛城心経をとなへ

なり役行者自彫涌現の十八童子八大金剛童子ハ宮ハ遷

し七大童子ハ葛木ハ遷し七大金剛童子一経護童子 須弥頂仏垂跡 光二乗嶽

福集童子 師子相仏垂跡 光三常住童子 常滅仏垂跡 光四集飯童子

梵相仏垂跡 二上嶽 光五宿者童子 度一切世間苦悩仏垂跡紅宿 光六禅前童子 須弥相仏

般若嶽 光七羅網童子 玄自在仏垂跡釈迦留岳

角行堂 役行者の遺像あり六月七日法会ハ彼しその日護摩堂ハ

柴燈の護摩あり宗名直言あり弘法大師の御影堂大黒堂永

角持堂 辯財天社 文殊菩薩 石寶殿 鎮守三十八所社名あり

金剛山の大和ハの内の堺ハ今の本堂ハ大和の内五坊ハ河の内ハ

ハ紀ハ境内ハ和泉の内ハ紀ハ 宛文大和志社記

南遊紀ハ云 葛城山ハ大峯外峯内ハ辺國ハ是経の名山

役行者絶頂ハ葛城の神社ハ大社あり一云ハ神ハ役行者堂あり

山上ハ二所あり下ハ河の内國金剛山法海ハ役小角の開基

是ハ伏の嶺ハ修法ハ行ハ新ハ坊ハ宿家化ハ大ハ大和の内の

農民ハ神ハ世尊ハ社の下ハ土ハ掘ハ入ハ

稲ハ實ハ出ハ掘那ハ有ハ掘ハ備ハ葛城の社ハ山の上ハ頂上ハ在ハ大和國ハ

金剛山の内ハ院ハ有ハ方ハ新ハ立ハ河の内ハ葛城の本社ハ下ハ不動ハ

立ハ是大和ハ内の境ハ葛城ハ小ハ嶽ハ河ハ是ハ

號ハ篠宮ハ葛城ハ金剛山の峯ハ

金剛山土産 桔梗 絶品 防己藤 ねぢ東 結ふ縄 小代

堀川二帝百首

[illegible]

[illegible]

山伏のうた

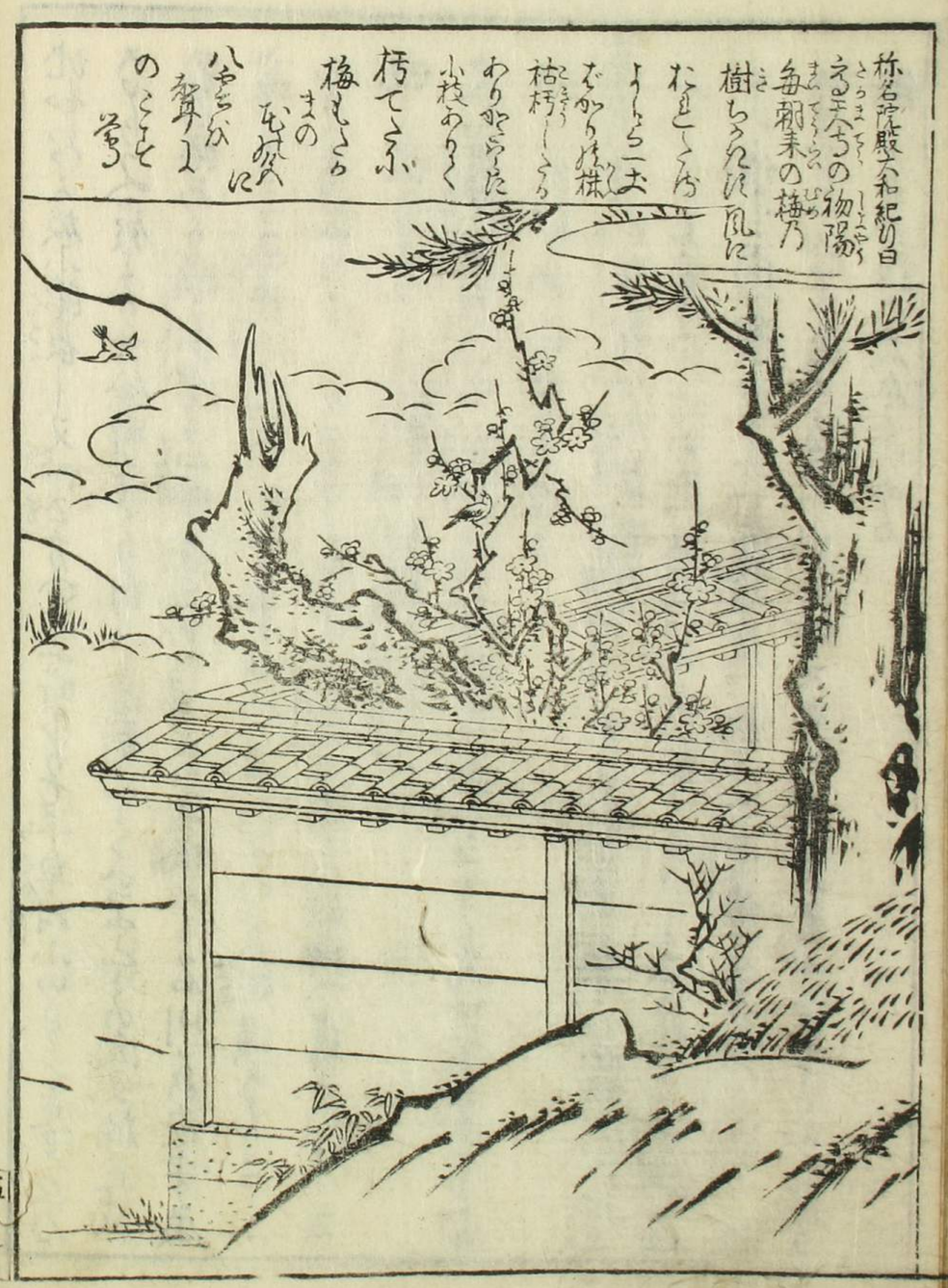
火かと

[illegible]

兼昌

朝原寺 寛文記曰金剛山の本堂より北八町坂中ふ
ある金剛山七坊の内なり
畫の彩大黒天像(佛教大師の化釈迦如来春日の化田植乃毘沙門
ゆ)そいまし(自田なり)(行ひ)そ像とかの今ふ御足ふ土つくりく
とらの八王子社あり中須比叡山この八王子断絶におよひし時ふ訴より
勅使ありそれより比叡山繁栄せしとい(金剛童子堂雑財天乃
やしろ鎮守三十八新社あり
石寺 寛文記曰金剛山本堂より北八町紀列の方ふ至ル 本尊八石佛の薬師如来
坂中ふあるいさも金剛山七坊の内なり
うれい(役行者百海國より願求あり行ふと云伝ふこのゆ(ふ石寺と号ス
境内八方十町余あるい(行者堂葛城明神 金剛童子堂雑財天社
鎮守二十八新社あり
南遊紀行云篠峯と葛城ふ(の)ふ水越須とく大和海内往来ハ
道あり足楠正成吉野殿(往来の道なりしとい(金剛山より西の
方(下ハ)水分の社ふ至る是本乃なり其坂二十町ゆ海内を大和とり

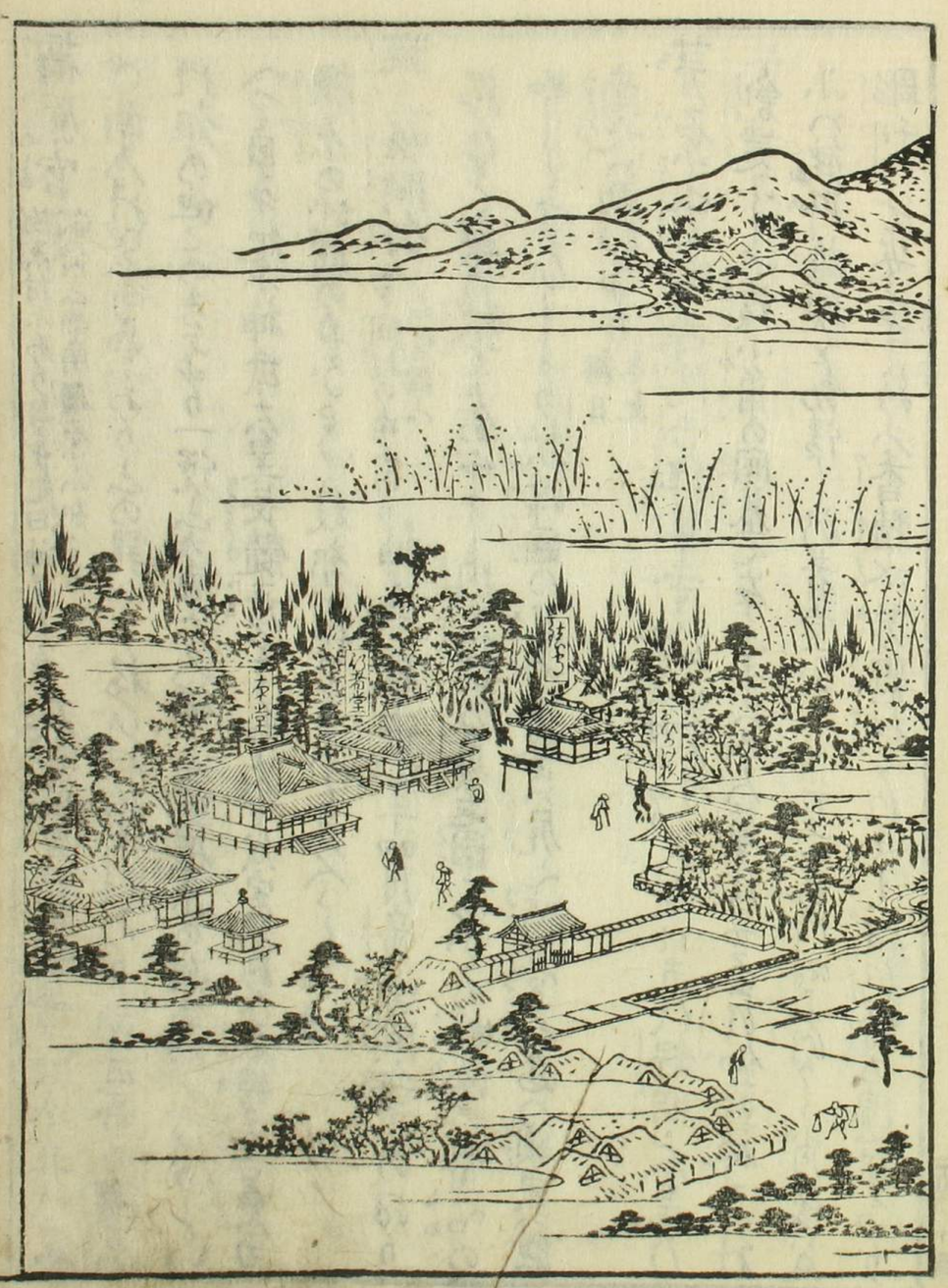
地ふ行ふ坂ふ路長し又坤の方(二十七町ゆりて千早村ふいたる是ハ乃
うり又岸より北餘町くとりりく金剛山とゆよとの間ふ楠正成
の石塔あり頗大なり石燈籠二基 石の瑞垣あり石川名投宇屋
建立なり即南ふ向て正成の墓 接州渓川ふあるい(躯墳なりこふ
ある(首塚なりと云是ハ氏より正成の首ハ故郷(送れしハ
埋し所なり(ふ不の城ハ(の内國なり
大和巡覽記曰或説ふ葛城ハ日本四番の高山なりと云ふ今ハ至(和
河内拾津西海眼下ふ遮る
高天寺 高天村ふあり正堂一宇僧舎六院 寛文記曰高天寺(金剛山の麓
畏内ふ鶯宿梅蜘蛛窟あり
ふ(く)茅屋(ハ)ふ坊ありいま((伽藍巍々なりしなの代より頽廢
して僅ふ二間四面の堂ふ十一面観世音 釈尊の霊像を安置ス其側ふ
照院と(ハ)茅屋の庭前ふ孝謙天皇の御宇ふ芳やどりく和歌ふ
詠しなる梅の本今ふあり

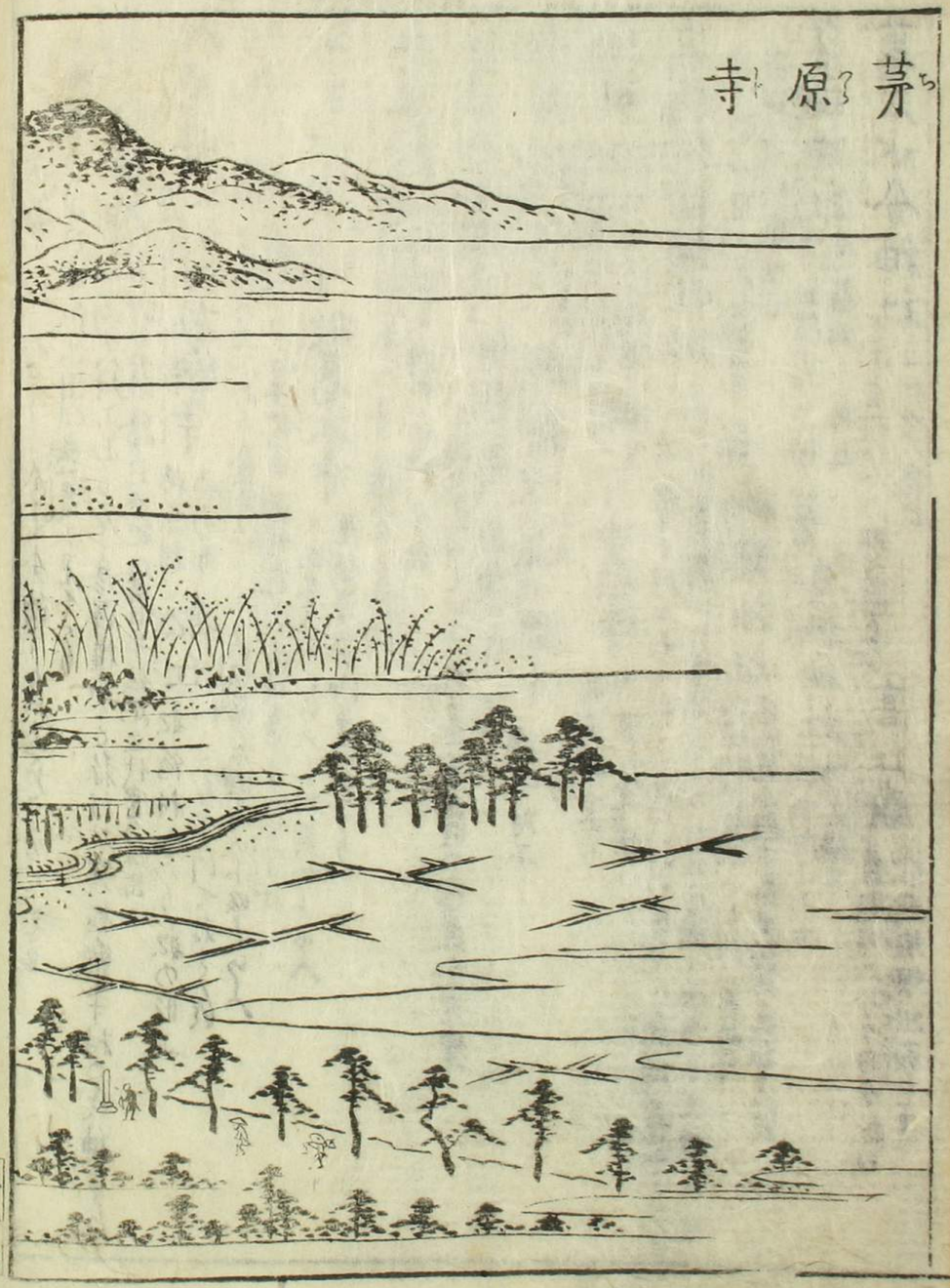


哀小
古調ろうん
ろ天寺
南洞

古今秘抄曰孝謙天皇の御宇大和國うたちふ所あり彼所ふるき童
ありしに或時空しくうる時の僧欲くるのまゝ涙しきりとなくこと
月日久敷ふるく秋をつもりぬれば
吟其所ふることけれ初陽毎朝来不相還なを栖とゝ吟ふるに文字ふ字
しるべしるべし初陽の名毎ふ朱をとゝもあつぐて還ぬ本乃栖
古今てう参拝へ近江國
ある山寺とあり
南遊紀に曰ひつゝ石の東村蘇より北町けて町ごゝ坂と称ふとりて
うの間小至うの間名ある所へ山ある所
うの間より四つゝ九の嶺まゝ二十町あうの方ふ極多し嶺の名所へ
大うる社あり寺あり俗ふいうる嶺の初陽毎朝来と吟ふ
し梅あり所之是より坂路甚けうしうる崖あり
なし作樂うもの〳〵ゝ又山ゝ之より大和の國中よくうる
蜘蛛窟 俗伝ふいうへけ北ふ土蜘蛛ありて御門御悩ありし以勅使公
えさをうしるべ嶺ふ策給とあひしとうり件乃

土蜘蛛のうの日本紀ふ出け巻首ふ見へ
高天彦神社 高天村ふあり今彦源権現と称ふ北窪極樂寺村の氏神とふ
神名帳續日本紀後紀三代實録出
松原井 北窪村ふあり 極樂寺 極乗村ふあり 船丘 船橋村ふあり船の形ふ
朝妻山 朝妻村の上ふあり金剛山より其坂路公避介の小坂とうへ
名區あり日本紀出 朝嬬行宮天武帝うへあ
葛木沈 朝妻村 故葛木寺 又妙安寺の御建立うり
聖徳太子の御建立うり
伏見祠 伏見村ふあり今八幡宮と称ふ
小野荘六村の氏神とふ
伏見山菩提寺 俗伝ふ菅原寺とい
鐘楼二王門僧舎六院あり
壺井 伏味村ふあり 風森 東伏味村ふあり 櫻井 櫻井村ふ
泉井ふ出て流へ
細井 神通寺村ふあり 中位寺 福西村ふあり
御巡礼記出
高鴨阿治須岐神社 神通寺村ふあり伏味荘六村の氏神とふ神名帳ふ及び
三代實録ふ出 神宮寺あり一名金剛寺とふ大般若經
あり跋曰施入大和國葛上郡 御嶽神社 村田村の東ふあり神名帳出
高鴨大明神之云
多田神社 多田村ふあり神名帳出 長柄神社 長柄村ふあり
今荘神と称ふ 函村田小殿下茶屋村の氏神とふ
葛本水分神社 関屋村ふあり神名帳及び 高丘廟 森脇村ふあり日本紀曰
三代實録出 蘇我蝦夷細廟と建




茅原寺

橿原宮 橿原村ふあり日本紀曰神武天皇大和巡覽記曰畝傍山今井八本畝傍山西南橿原ふ郡と
の南乃ち此ふ町あふあり山の巽ふう移ひ村柏原村あり神武帝の橿原
此郡の地この名とあり一説山の東方久保と云ふ橿原の郡のわゝうりゝい
へつ日本紀ふ神武天皇長髓彦とうち天下を定ふ行ひ畝傍山の東を
橿原の地國のゆゑゆゑ故郡と他とあゝとうゝ 下畧
腋上嗅間岳 本間村の南ふあり神武天皇卅一年四月帝嗅間岳ふのぼり
一名堅國山 内本綿の真迫國とゝゝも玲の臀呫の
狩ひゝ國の狀とんゝぐゝ
ぬゝと宮ひゝゝり秋津國の名あり臀ふ尻ふ呫ふ掌ふ面ふ額東ふ腹
南北ふ兩股あり 釋日本紀
芳原山金剛壽院吉祥草寺 芳原村ふあり人皇卅五代舒明天皇乃
一名芳原寺 芳原
創建ふて役ふ角の周基ふ本堂ふ大尊を安置ふ伽藍神乃社
ふふ鎮郡權現と勸請ふ行者堂ふ小角卅二歳の御ぬゝ肖像を
彫刻て安置ふ行ふ香精水笈懸杉ゝれゝも役行者の遺跡あり

抑此ふ行者誕生の所ゝ舒明天皇六年の出誕ゝり今ふ至ゝ
一千百五十有余年の深刹あり
孝安天皇陵 玉手村ふあり玉手丘上陵延喜式ふ孝安天王と
白鳥陵 信田村ふあり陵考曰高九間根廻百卌十間近ゝ十卌間
日本武尊東夷を征ぶ帰ゝ陳の御代狩國能
原郡あゝて崩ゝ御歳三十七昂能原郡の陵ふ葬ゝ御
白鳥と化ゝ大和國を去ゝて飛行ひゝゝ祥ふ宿ふひゝゝて飛ゝ
ゝふ明夜のゝあり白鳥ふ大和國琴弾原ふとゞまるゝ
そこふ陵を造ゝ白鳥を花ゝふの内國舊市邑ふとゞまり行ひゝゝ
陵を造ゝふ築ゝ白鳥の二陵と云ふ行ふ大ふ御けと行ひゝゝふ夜
冠を葬ゝ 日本紀
彈琴原 信田原谷二ケ村の池心宮 池内御新二ケ村のあゝふあり日本紀曰孝昭
天皇元年ふ遷都あゝゝれを池心宮ゝゝふ入
ゝゝ紀ノ 孫金剛山ゝりふゝ忍海郡ふ入 持田寺田御新村を神ゝ
巨勢山神社 古瀧村ふあり神名帳乃大倉比賣神社 古瀧の合村ふあり
三代実録出 神名帳出

彩六帖
鹿子色の
表野に鳴く雉子
いかなるか
人ふるまひ
光俊

巨勢の野 古昔村ふあり巨勢山ふ里の上方ふあり

万葉ふこせやま

巨勢山のつらつらつばらつらつらに見つつしのへと言ふもの

彰後撰

君もこそ氷もとけて川上の

彰勅撰

玉桂みとりの色もこまかなる

千五百番

物ゆゑにこそ色の変ぬれ

今木雙墓 古瀬ふ泥村ふあり日本紀曰中臣鎌子連入鹿ふ滅しく屍ふ雙墓ふ葬埋ふるふ

大穴持神社 朝町村ふあり今ふ稲荷神と称ふ祭ふ故實ふ詳ふ

多越川 所村の南ふ至ふ日つ流れ川ふ入

鴨都波八重事代主命神社 所村ふあり迫隣五ヶ村の氏神ふ

来迎寺 飯岡と號ふ 竹田村ふあり

戒那山 俱尸羅村ふあり山中ふ瀑布あり高さ丈餘の上ふ寺あり安置ふ佛ふ戒那千塔ふ

鴨口神社 俱尸羅村高鴨山ふあり松一株あり樹下ふ祠あり

小明原 右口村 土人ふ樹頭ふ時ふ聖燈あり 千塚 右口村ふあり 重丘 櫛羽村ふあり緑樹鬱茂し林中ふ祠あり

葛木大重神社 櫛羽村ふあり 室山 室村の上方ふあり

吾妻祠 室村の南鉢伏の東ふあり 神名帳出 北に望む白多陵ふ

室秋津嶋宮 今室村ふ分る宮の地ふ遷しく秋は宮と名つけ人皇六代孝安天皇二年十月都ふ

孝照天皇陵 室村ふあり延喜諸陵式ふ出又陵考曰宮ふ山根廻百二十六間高サ九間姫百尺十二間八幡祠あり

磐余若櫻宮 応神天皇ふ小屋ふ西ふ在ふ所あり

阿多大野 宇智郡ふ多村ふあり

金葉

玉葛

彰後撰

玉葛のあるの大野の白露を吹ふ

彰後撰

形見とそあるの大野の萩の露

続後拾遺

ちらしてものそあるの大野のまくすの秋風そ

夫木

秋風ふをけをくれる白露ふ

阿陀比賣神社 阿陀郷ふ在村 阿陀墓 阿陀村大家ふあり延喜式日贈六政大臣

龍宮窟 阿陀村ふあり窟中ふ霊泉あり 昇天し梱ぞ

一字抄

女郎花しらくも
月ゆるふ
あされ大郎ふ
たくまと
おとくへて

供理太夫厨季

ひろろと
松嶽
くしや
女郎花
ちきな

榮之寺 小浜村にあり 役優婆塞草創の地なり元正帝の御願養老二年義京
武智麿の建立なり〻伽藍巍々たり〻年経て今僅に遺りて金堂
の本尊薬師佛日光月光十二神將千百余年に おとろへ今はくづれ乃
ちふして金堂小礎殘り又八角堂は武智麿の長男楷佩右大臣豊成卿
の造營なりと 造もと〻其後〻求聞持所の閑伽井は弘法大師密修練
の舊跡なり 又石川の水流は〻て所謂後十二町の間四時常に絶えず西
静〻世の人名て石川と云 昔は石川の川上より常に船筏の下るを以て山
地幽閑なりて修禅に後あり故に高野大師の修行なり 或泰澄等の先德
こゝに来遊の日當ちの四記に見へたり 大和志曰當ちの義は氏寺家務太政大臣
八角堂 多寶塔 伽藍神祠 鐘樓七層石塔圖 僧院六宇古鐘あり 銘は下に詳し
又石燈爐あり 朝日弘安七年造ゝ云 養老 天平 延喜 永延 元中 應永
多の綸旨官符
數十章庫藏に
古鐘 山城國深草道澄寺の撞鐘なり當ちに四記
小所見るに俗説あり とゝ
近頃模寫の義夢世に行る

道澄寺鐘銘并序

小野道風書。見鐘銘集及深草志共右誤字傳寫誤り不以今所現在撞鐘銘以訂之

道澄寺者。從三位守大納言兼右近衛大將行皇太子傳藤原朝臣。參議左大辯從四位上兼行勘解由長官播磨權守橘朝臣為報四恩濟六趣。合誠勸力所建立也。堂宇比薨南北輪奐尊像接座前後跏趺。兩相公。宿殖香火之緣。生為瓜葛之戚。非唯現世結契闊之情。欲淨刹共安養之樂。故各取其名首字以為此寺額。題所以貽本緣於来代期同志於他生也。藤亞相。爰命鳥匠。乃鑄鴻鐘。且將令長夜昏迷聞妙聲而知曉苦海沉溺驚梵唄而通津。延喜七年十一月三日銘之其詞云

偈師施冶　菩提催緣　虚受必應　響萬自傳
從夕至曉　出定入禪　傍唱衆聖　遥警大仙
法喜增感　耶夢驚眠　通阿鼻獄　達有頂天
刼數億萬　垂累三千　一音利益　無限無遏

道澄寺は今廢絶 俗呼て道澄寺あり 今淀大津の僧住持して建立 遺跡は舊址なり此に三所あり 山城名勝志山列名跡志に見 舊址は詳なり

宗山ちのおゐる
まるこ川とらへん
宇智川うつて
其みゐりこん
こゝ間こゝろゐる
うれゐ和須川ゐるこん
ゐくこゝ在ゐ遠り
宇野ゐ舞く
吉野川ゐ入

後阿陁墓 小嶋村栄山寺の北にあり 贈太政大臣正一位藤原武智麻呂の墓也 延喜諸陵式 續日本紀に見えたり

藤原長岡宅址 小嶋村にあり内麻呂の男六子大同年中のころ也左衛門少尉より 但し最武藝に長し兼和十三年従四位上に叙し宇智郡に隠居し嘉祥二月卒す年六十四歳

宇野親治宅址 宇野村にあり保元の乱に大和国宇野七郎親治が新院の味方にまゐりし人

小島城 大和志曰天文年中 別所友興これに居る

龍池神祠 二在村にあり 西河内の氏神也

月見寺 二在村にあり 王墓 須川村にあり由緒さだかならず荒墳也 庶人墓 二在村の上方にあり 土人曰他戸王墓

鳳凰寺 小和村にあり 高天岸野神社 北山村にあり岩野安財天と称す 楢井 近内村にあり

一尾背神社 北山村にあり今名の分神と称す 神名帳に出 宮前霹靂神社 五久留野村にあり 今雷神と称す

観音寺 岡村にあり 荒木神社 今井村荒木坂の北の東にあり今天神と称す 浮田といふ山城国旋の名に同名あり

宇智神社 今井の安生寺村宇智川の東南にあり 今國生明神と称す境内に安生寺あり

矢田畠笠辻 五條村より八町ひがし今井村にあり むかし桜井武者所家成といふ人 霊験の矢田寺の地蔵尊を信仰し念じける 霊験あらたかにて 此人とりたてん といひし時桜井のほとりにて地蔵尊来臨ましまして 人々まゐりて礼拝しけるに すなはち 御笠をとりおかれしより笠の辻の名ありしぞといへり

御霊神祠 丹安生村にあり五條村と共に氏神とす 井上皇后他戸親王の御墳つらなる 世の人なやみ多くして 勅使を立られ宝亀のころ霊を慰めらる 御霊明神と崇め奉る

本社中央御霊井上皇后北の早良親王 本地堂 唯服観音聖観音千手観音如意輪 本社東は他戸親王 二座若宮一座

霊安寺 御霊の社を守る寺なれば 正長元年の秋兵火に罹りて悉く焼亡し再興 光院の御守 弘法大師の御作 北畠准三后の御霊の祀り 神社仏堂本地仏の像も一時に焼けうせぬ 秘仏の像 佛像もあれど 伝はらず 本地観音の像は 兵営して安置し

良峯寺 丹安生村 良峯村にあり

丹生川 源は吉野郡加名生谷より丹原生子村を経て吉野川に入

丹生川神社 丹原村にあり今御霊と称し生子村と共に氏神とす 吉祥院 一宇 僧舎二宇

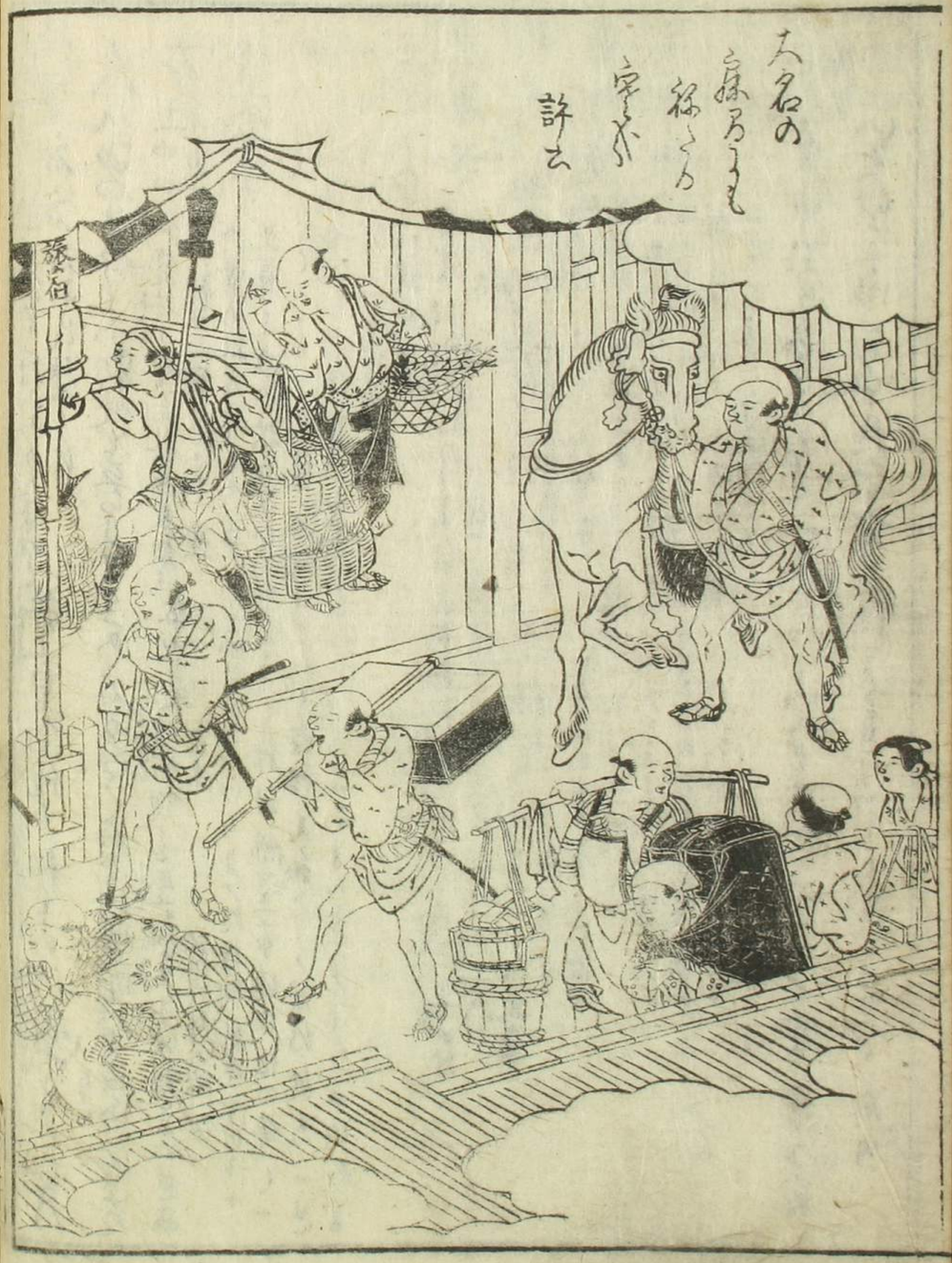
宇智陵 御山村にあり大和國宇智郡にありとぞ 續日本紀にも見えたり 延喜式曰皇后井上内親王

火雷神社 御山村にあり今雷神と称す 二見城 五條村の東吉野川岸にあり 元亀年中松倉重政居城を

大澤川 新町に至り吉野川に入 舊名見る 澤川の源は神福山より上村大澤村を経て

新勅撰 類聚

夜の中は 山と ... いそげとも ... 讀人不知 河内


大名の
家ろうも
稼ぐ方
家来
許云
旅人宿

八條里ゝ
ゝう街都の驛みーゝく
四方の旅客ゝこにゆゝく
遠近の荷物もゝゝ小交易
して朝ゝ夕市ゝゝゝ家
ゝゝく郷の産ひいゝゝん方か
白虎通曰商ゝゝゝその方と近と
ゝゝひ四方の産物が通ゝゝゝが
聚ゝゝゝ

二見神社 二見村ふあり今兩所と称ス 統神祠 須恵村ふあり今八幡と称ス 五條村と氏神分共に一代実録出
櫻井寺 須恵村ふあり 天文廿二年鑄造の鐘の銘ふくらくの天暦年中 武者新家成る建立之
櫻井 櫻井ちの傍ふあり 横九尺竪五尺 中村坐神祠 下中村ふあり 所霊と称ス 牧所荘八ケ村の氏神なり
安井寺 下村ふあり 當ちの什物ふ上村城 上村ふあり 阿字曼陀羅あり 牧所入道居城
神福山 大澤村ふあり 金剛山と号ス 高峻 大澤川 大澤村より流れ紀州の 大澤ちの谷所門より入
高木山佐太雄神社 神福山の嶺ふあり 俗ふ天狗窟と称ス 神名帳出
大澤寺 大澤村ふあり 神福山と號ス 茶師堂一宇境内に琵琶池
大澤石あり 真言修験道 村民田ふ耕ふ 墓地ふ堀崩
楊貴氏墓 大澤村ふあり 享保十二年 村民田ふ耕ふ 墓地ふ堀崩
中より 墓一寸六分 横九寸 牧ふ 蓮華寺ふあり 什物
拝して全き石十枚 牧ふ 今敬車
文字ふ彫 文字毎ふ朱ふ入 其文ふ曰
従五位上守右衛士督兼行中宮亮下道朝臣真備 葬于楊貴氏之墓 天平
十一年八月十三日記 歳次己卯云云 全文金石摸写圖ふ出
蓮華寺 大澤村ふあり
真土山 上野村のあふあり 催馬樂註和抄曰大和紀伊の國境うち
澄月寺拾遺 紀伊國云云
こゐんなかちの山の郭公 なほ 読人ふ和

彩古今 牧めさん人ふ佐ちの山ふ有りと称ふ 太上天皇
紀宣朝臣大和赤土山ちくさ名安の人ふ佐ちの山ふ有りと称ふ
佐ちの名ふ有ふ 女の人ふ有ふ
は
なのめさん人ふ佐ちの山風ふ吹 夜ふ
續古今
ひくるあり佐ちの山郭公 人ふ
日
お渡を弱みむらの白ふ
我ぞこふ佐ちの山の若草 天暦御歌
彩續古今
咲ぬ中ふ花ふ佐ちの山のふ人 知家
戸立山 南紀紀り日戸ちの山ふ渡のぬくもくひくもくふ 藤倉右金
戸ふくくはくくふ月名所くを名おくを大和國中名所
しあり里人ふ紀別の
内あり里人ふ紀別の
角田川 奇拾日大和國信土山のかくふ
ありとそ名所ふ云云
万葉
白ふ白人信土の山川ふ我馬難家ふ
落松神社 左所不詳或曰黒馬村ふあり今所霊と称ス 迫津十三ケ村の氏神なり
大飼寺 大飼村ふあり

彩古今

雅を四ツ侍乳の山乃
をみなへし
秋と契る人そ
あるらし

小野小町

内大野 大野村にあり　八雲御抄には大和國としるす　澄月が說曰宇智郡にある名

万葉　たまきはる内の大野に馬なべてあさふますらんその草ふか野

夫木　霜さゆる内の大野の尾花枯にあさぬまかせり駒な川むく　行家

安日寺 表野村にあり

吉野川波 大銅村にあり

楢嶺山 大深村にあり　續日本紀出

高市 倭名類聚鈔曰國府高市郡にあり　日本紀神代巻曰天高市　鴨祐之曰日神郡か建る所なり　神名秘書に曰天之高市天宮足なり　中臣祓に所謂高日國一云高見國　みな此ほとりなる名指なり

國分寺 南八木村にあり　延喜式出

蘇武川 曽武橋 八木村にあり　流る川のかれし王林抄曰聖徳太子斑鳩の宮より八木の里へかよひ給ふとき此橋をわたり給ふ

倭統記　花あるゝ七世紀河上人和州八木なる

ながるゝてふ八木の郷に志かすみや水曽武川

鴨事代主神社 高殿村にあり　今大宮と称し　又鴨公森　天武天皇元年高市縣主許梅に神託ありてこゝに鎮坐なり神名帳にも　三代実録に出

秀泉井 高殿村にあり

鷺栖神社 四分村にあり　今鷺栖八幡と称し　延喜式今村の氏神とし　神名帳出　王林抄曰藤原宮ハ鷺栖坂の北之桜に鷺栖の地名今に残れり　今村にあり

栗原井 四分村にあり

廢薬師寺 木殿村にあり　礎石存す　天武天皇の建立　後平城の右京にうつす

田中宮 田中村にあり　むかし舒明天皇皇居しあひし所なり

馬立伊勢部田中神祠 田中村にあり　今八幡と称し　二ヶ村の氏神　三代実録出

石川廢精舎 石川村にあり　本明寺及び石塔あり　是その古址なり　人皇三十一代敏達天皇十三年九月百済國より弥勒の石佛一軀を貢ぐ　蘇我馬子これをうけて播磨國の高麗の僧恵便を法の師と定め善信尼禅蔵尼恵善尼の三人に佛をならはしむ　ひつかひ達等司馬達等まかり馬子の宅にて仏舎利現じけるを馬子の宿禰にたてまつる　馬子こころみに鐵鎚をもって舎利をうちしかども鎚のくだけて舎利はそこなはれず　また水に入れて試みしかば　舎利うかびてしづまず　これによりて馬子宿禰池辺氷田司馬達等仏法をあがめ　石川の宅に佛殿をつくり仏法のおこりはじめなり

孝元天皇陵 日本紀　石川村にあり　字中山塚道りに劔池といへるあり　故に劔池島上陵といふ　陵考曰陵高一丈根廻三十二間峠廻三百廿間

田身池 和田村にあり　多能武池ともいふ

夫木　下つ瀬やくさかくれなるたなむの池にあやめ蒲を　隆時

大野丘塔 和田村にあり　礎石存す　蘇我馬子ここに大塔を建て、大臣合議して毀く　石川精舎をうばひにひ塔とのに守屋大連焼拂ふといふなり

廢大官大寺 小山村に礎石あり俗に講堂といふ其外ちらされたるがごとくいくらもあり又塔の礎ありしならん 礎石の径一丈八尺ありこれ塔の礎ありしならん

豊浦池 豊浦村にあり

甘樫坐神社 豊浦村にあり今推古天皇と称す 神名帳に三代実録出

味橿丘 豊浦村にあり皇極天皇三年蘇我入鹿家を此に起こす

允恭天皇四年よ諸々の姓の真偽分明ならざるをもつて甘橿丘に釜をすゑ神に誓ひ熱湯をもつてあきらかにせさせ給ふ勅宣ありしかば諸々の氏姓の人々湯浴斎戒して味橿丘にいたりことごとく本姓を名のり手を熱湯に探りて釜にむかひ熱湯の中に手を濯くに真なるものはおのづから事なく偽あるものは皆やけたゞれたり それより人々怖れ恐れて偽りを申すものなかりしとぞ 日本紀 これより後々氏姓の定まりしものなり 後世の帝も代々本系をもつて図書寮に納められけるとかや 本朝湯起請の始にやあらん 秋日本紀に弘仁私記に大書等の證書に

廣嚴寺 豊浦村にあり又向原寺に作る又名豊浦寺といふ傍に井あり櫻井といふ又名榎葉井といふ 人皇三十代欽明天皇十三年十月百済國の聖明王金銅の釈迦像一躯幡蓋経論若干の巻を帝に献じ奉りけるに其時群臣奏して曰我国天地社稷の百八十神を春夏秋冬に祭りたまふ今改めて他國の神を崇めたまはゞおそらくは國神の怒をまねかんと奏しけり故に蘇我稲目にたまはりて仏を小墾田の家に安置し向原の家を寺となしけるが後に守屋大連寺を焼き仏を難波の堀江に流しけり向原寺は本朝寺院のはじめとかや其後元興寺と改められし 三代格に曰元興寺は佛法元興の場聖教最初の地なりといふ

続古今
かつらきやとよらの寺の秋乃月西に成りても影ぞのこれる　源具氏

玉葉
またなくさへ名所の花も見られねばとよらの寺の入相乃空　入道前太政大臣

夫木
かつらきや豊浦の寺の西なるえの葉井にこそ白玉しづく
榎葉井を名おふなるべし

難波堀江 玉林抄に曰豊浦寺の東北仏門の前にある池なり昔守屋大連堂塔を焼仏像を難波堀江に捨てし所なりといへり今は浅くなりて池となりしかど昔は広くして海のごとくありしならん又難波江ともいふ又岩光寺の縁起に摂津国難波浦ともいひ又法隆寺の旧記には大和国難波江と定めたり何れとも定めがたし

蘇我入鹿第 豊浦寺の辺にありといふ 或は榎葉井の東にあり 甘檮丘の内なりといへり

橘寺

宮鶯班鳩古道長
當年廢戸說經場
天花作雨繽紛色
偏帶故墟盧橘香

大江資衡

寺寂し
立出橘小
むらの春
湘夕

小墾田宮　豊浦村にあり推古天皇十一年皇居なりしに遷り給ふ皇極天皇二年十二月又こゝに遷移し給ふ此辺に細川のながれにかけさせたりしやうなる板橋なりしをせりしが万葉集に小墾田橋と称し千載集以下撰集載る所板田橋とよめり小坂田橋なとも称せられける

千載
橋本くおもひくみへしをさしわたれば田の橋も今波にはかり　法橋泰覚

玉葉
とろくれ板田橋のこぼれしなかみかたしくも波るかな　若信法師 一名親鸞上人

同
朽ぬつき板田橋のもし作るならをとわたしけるかな　二条院讃岐

続後拾遺
をやこの板田橋れこやとおもひけるかなのかしに人が我せこ　人麿

同
又月雨に板田の橋もおもて人くけもわれ道に見かなし　加茂基久

軽池　大軽村にあり一に軽に作る　日本紀に出

玉葉
かるの池の入江にむれし鴨もおもとの上に羽拂ならて　紀皇女

新千載
名はかのかるの市人いふあらしとしらぬ年もあれなるなるかな　為茂

廃軽寺　軽村の属村東明寺にあり呑空堂として本尊は薬師如来なり軽大臣遣唐使の時唐の則天皇后の仏像なりしを宮女にたちのく絵にねさせみ給ひて此寺に安置ありしを軽大臣遣唐使そのしへんをまもり入彼帝の命によりて加の大臣の面に燈台を載せ額に燈台なかくしてしなかもえかせの人に世の人燈台鬼といひけるこそありし給ひ後そいひけるとぞ人皇卅五代舒明天皇の御宇にありしなり卅六代皇極帝の時なり大臣の息宰相弼光遣唐使たりし時燈台鬼となりしを父に逢ひてまみえ人をいとしも父としへ来なりしなり父は我子なるゝといくとれしく一指を噛みて詩句をなつけし事より父といふなりけりよみに来て娘をしくばしもふ縁起にみえたり

我元日本華京客　汝是一家同姓人　為子為爺前世契
隔山隔海恋情辛　経年流涕蓬蒿宿　逐日馳思蘭菊親
形破他郷作燈鬼　争帰旧里寄此身

燈の影にしなし身のなれども子なれば父をも思ひなかりけり

或曰此る後人の所作にして忘談なりといふも既に下学集及び神社啓蒙に見えたれば出ては軽大臣其の時の人なるもの国史諸実録に所見なし

曲峡宮　軽の町沖の町なかり小田地の字に曲峡ありなきとよぶ所なりけるのまさの斤言といへり懿徳天皇都なり軽の地に遷り給ふと日本紀に見えたり

境原宮　軽の西に天神の祠あり是を所なりさかいはらといへるなり孝元天皇四年都なり軽の地にうつり給ふと日本紀に見えたり

豊明宮　応神天皇元年都なり軽の地に遷し是豊明宮といふ日本紀に見えたり　旧址不詳

新撰六帖
軽島の明宮のむかしよりはしめてし唐人乃池

檜隈大内陵　五條野村にあり天武帝持統帝合葬し給ふ陵なり字王の墓又円山ともいふ中に石槨二つあり陵考曰高四間根廻九十五間　垣入十八間

廃川原寺　川原村にあり堂一宇古仏の二尺又十二丈の像あり傍に礎石あり一名弘福寺といふ

菩提寺家起

橋本の西方より
金毘羅の際くびれ来
て大く法堂の柱に
ぶらりゆいめとまり
老ぞ〜老て死さり
千年ぶりしたる
一首の和歌を吟
付さり

新古今
菩提寺の法堂に
さらにむしくひ
さる奇

ある人ある時に云ふ
橋本の道ふ
ゆけ
ゆと人は
世中の人

佛頭山上宮院菩提寺一名橘寺とも號す橘村ふあり安倍島ふくしの人
人皇三十四代推古天皇十四年七月聖德太子勝鬘經を講せ給ふ正堂金仙堂僧舍一區あり
塵尾をとり師子座ふのぼりゐひ〳〵として出家のぬくうを拂ひ諸の
名僧大德其妙義をうけ給ふ
講とるの夜蓮花ふりきたりて地ふみちらす花のかをりたかくして三二月
ありと云ふ本氏伝多聞本尊聖德太子十六歳の遺像を法空上人の作
けり上人いく我殿息持明院殿の太子二歳の尊像を日域の最初之王林拾
佛頭山とは上人勝曼經講金の時清涼殿の前の山頭ふ千佛の御くし
出現あり〳〵とは號せり王林拾
とは今ふあり〳〵清涼山とも云ふ千巻
ありと文上宮院とは上宮太子の御建立ふ院号せり橘寺とは橘の
郡の皇居の地ふ名ふよばるゝ寺前石碑あり緣起曰弘法大師一丈餘の碑を立ゆ人之云
其銘曰佛頭山上宮太子勝髮講讃之砌出蓮華庭前之下
當山緣起
太子勅して清涼殿ふ於て勝髮經ふ講説ふ虛空ふ樂ふ

異香四方ふ花降ふりふふ千佛の面貌光明赫奕として現ふ
天皇奇異ふおもひとゝ敬感のゆゑ則此所ふ東西八町南北六
町金堂講堂金堂五重塔經藏鐘樓中門惣門六十六坊の僧坊
ふみゝ我朝第一の伽藍ふ建營しゆゑ人皆太子の靈驗ふ足
うりけふ一段ふ歩りをとゝぶ必ふ極樂に往生せん御願ふ二首あり

佛生花ふ咲場の有けるふ去を花國とゝ名の只〳〵〳〵ん

賀紀さ法の去るゝの地ふ落てゝゝを見とゝる橘乃ち

畝傍塚 たゝ十歳の御時百濟國ふり諸藏人ふ御拾ひあり寺塔ふ建營
ふ農具多ふ至ふ本朝ふつゝり田畑
二百二十歩ふ割せゆゑ其時多の豊
ふ十分一とゝ二十六塚ふ石〳〵〳〵ふ勝鬘經講讃の
ふあり〳〵〳〵畝傍塚と号ふ畝傍ふ近ふ
ふ畝傍ふ近ふ新に埋めゝふ
毎日ふ示しゆゑ人本邦ふ毎日の
ふ埋めゝふ蓮花塚とゝ云ふ
春井 みゝ家井とゝ云ふの井ふ
ふの井ふ三ふの井ふ
ふの井ふ三ふの井あり足を
ふ御誕生の名とゝ人東ふ春井あり
ふ井ふ今ふあり
ふ赤染の井あり湯ゆをいとゝ
古鐘 勒曰建治四年泉州大鳥郡深井村吉祥寺鐘
石燈壇 時代不詳古代の相形

拾芥抄曰菩提寺又橋寺と號に志度の道場上西海人名に建立とも記す
八雲御抄曰勅撰名所に橋寺の内園と云おり班鳩宮の古道なり
あをによしなるくにより
大和國なるべし
金根

班鳩の宮は古道なるべし

性霊集曰淳和帝の御宇に故中務卿親王の御爲に菜師如來日月遍照菩薩
八部建立なるべし金文の蓮華法曼陀羅書寫の功なるべし
四年九月に橘ちふまの附しめしゆ
御願文の詞にあるべしせり

橘寺の花乃下風

厩坂 新不詳應神天皇十五年八月百濟國より馬二匹を献の坂上
厩坂宮 舒明帝の宮 日本紀に厩坂沈 建御名神 下照姫命 新不詳日本紀に厩坂とあり
神名備山 神名村 神岳 真神原 淺小竹原 みるはかりなり

玉葉

月ひとつ白ゆきなれて咲ふる神とをのえの橘ちる 宗尊親王

澄月名抄

花名風むさぶる今の真神原ふるき神とをのえの橘ちる 名清

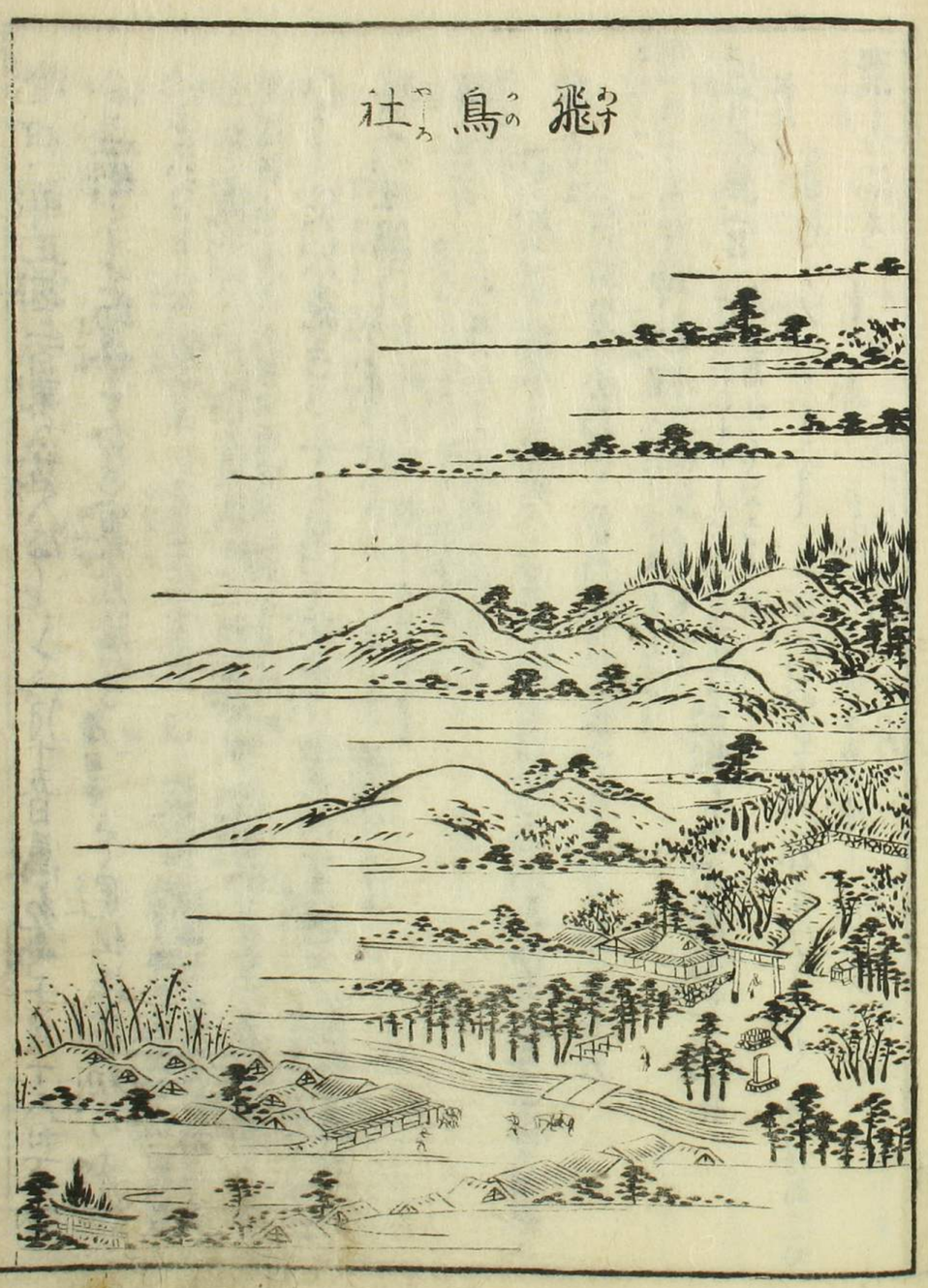
飛鳥坐神社 飛名村に神名帳出四座合殿小祠五十餘前又酒殿 岡村の内
あり大石あり縦一丈五尺横五尺八石面に槽七道に彫刻にお作
沃淵 神酒 本社四座 事代主神 高照光神 建御名神 下照姫命
奥社二座 天照太神宮 豊氣太神宮 末社 八十座 中社二座 素盞烏尊 大巳貴神

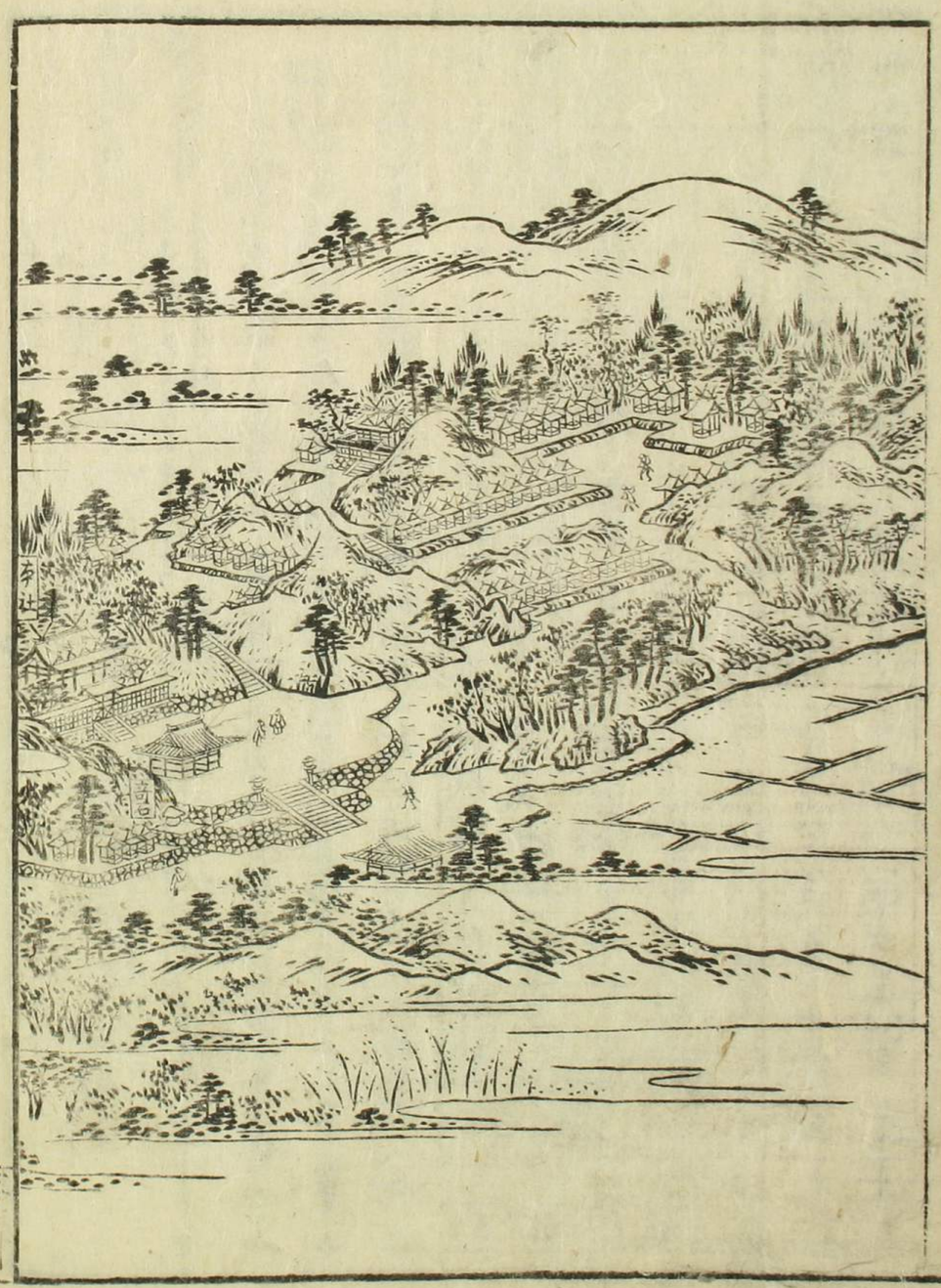
飛鳥井 社名 催馬樂曰 花名井にやどりはなれしかけをのもとに

板蓋宮 花名岡二村の間にあり 齊明帝 川原宮 岡 花名の間にあり 板蓋宮より遷居の地
飛名寺 花名村にあり今は廢寺 舒明帝 奪田址 花名村の北田畑の中小礎石九十たこのりあり

一名元興寺と號して霊亀二年平城左京に移る藍觸は聖德太子
守屋が退治のとき御願ありて十七歳の御時建營しなり本尊は
釋迦如來丈六の尊像鞍作の作なり初は造仏の始高麗國より興王
つくりたまひしく黄金三百兩を献せしに遂に佛成就しまひぬ光銘 推古天皇十三年歳次
乙巳四月八日戊辰以銅一萬三千貳百斤金七百五十九兩 初住は高麗の慧慈百濟
敬造釋迦丈六像銅繡並菩薩侍等云云
の慧聰法師ともに於て安居しまひぬ安居院ともいふ 後齊明天皇
二年に須弥山の形なりの西に盂蘭盆會あり 日本紀に盂蘭盆會 本朝盂蘭盆會
くらゐ 大武帝六年に一切經を漢土に渡しまひぬ 帝はもの中門に二躰
禮あはしく珍寶を放入の人持統帝元年に大武帝の御方なり
袈裟くらゐ人別に一領つゝ施しまひぬ 日本紀に仁明帝承明十年あり

飛鳥社

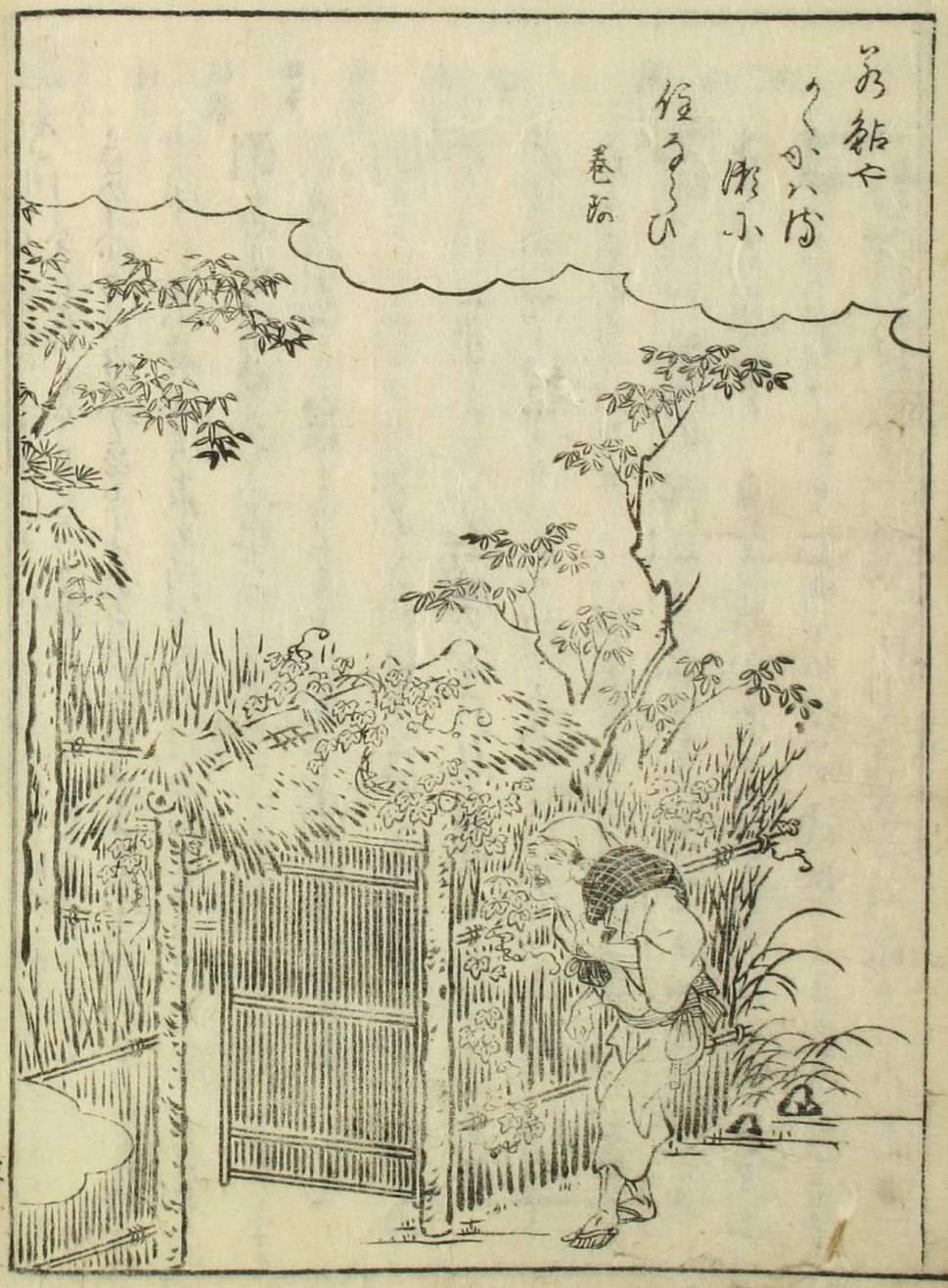




燈油一解正税二百束ヲ超入ゆるしてと六月十五日萬花会十月十八日下燈
会恒例として勅修とゝのの宣下ヲ給る 続日本紀 是仏法家初乃寺ゝ
ゆとゝうり貞観四年の官符ニ書セ[illegible]ル額ニ曰 此寺佛法元興之場聖教
帝都遷平城之日諸寺隨移件寺獨留朝庭 嚴物之地也去和銅三年
更造新寺備其不移間所謂本元興寺是也 三代格 仕昔四方の門毎ゝ額あり
ひがしの門ニ花名ちふしの門ニ法真ち南の門ニ元興ち西南の両寺今安
北の門法蓮ち 今花名村ニあり〳〵真宗の道場とする 居蔵ニ属ス
安居井 楊ちより艮ニあり井泉みてて
続後拾遺 ゆるぬうり称てゝゆてとぶ名のあとゝれちの入あひの聲 弐名明親王
所二条百首
うゝの世ハ々〳〵ゝあとゝのちれ〳〵ゝ名ゝまぞゝひとゝをゝん
飛鳥ニ口坐神社 飛名村上方名形とふあり 神名帳三代実録ニ
遠飛鳥宮 花名村ニあり〳〵古事記曰 允恭天皇遠飛名宮ニ坐ス
新続古今 今舊址とゝゝうゝれ
いゝ本枕とゝの坂つのほゝふまとゝとゝゝ川あとゝの乃都ゝひゝし も 檜大伝都光好
飛名ニ伝名ニ行宮 花名の南ニ址あり孝徳天の行宮 荒墳 花名ニあり
傍ニ井あり行宮井とゝうゝく 俗云入赤の塚ゝゝて

飛名川 名原畑の中ゝりゝゝ細川ゝ 飛名ゝ比分
古今 ゝゝゝ行ゝ今井に至り蘇我川と云 名歴十綱 那小入
ゝゝの世の中ゝゝゝあゝゝ花名川ゝゝ 春道列樹
拾遺 世の中ゝゝゝあゝゝ花名川ゝゝ成 ゝゝ
後撰 関ゝゝゝゝゝゝ飛名川波ゝみゝゝゝ ゝ名
拾遺 花名川ゝゝゝゝゝ水ゝゝゝ 人丸
後拾遺 関ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ川波ゝゝ世ゝゝ 赤染衛門
新古今 あゝゝ川ゝゝゝゝゝゝ城のやまれ枯風吹ゝゝ 人麿
〃 花名川ゝゝゝゝゝゝゝゝ 椎中納言長方
〃 花名のあゝゝ里ゝゝゝゝゝゝゝゝ 元明天皇
続古今 あゝゝ川ゆゝ物の波ゝ佛秋ゝゝ 定家
〃 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
〃 世中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 後鳥羽院
〃 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 新勅
花名川の和名九九一代集の中に八十五首あり

いろ紙や
くるかハぬ
時ふ
住るゝひ
巻西



飛鳥里 橘川原東山 雷丘名ハ濱ニ

後拾遺

ぬつとふくるあをの里は郭公ゆふてなるらん

岡屋入道 家隆卿

玉葉

玉井はたゝさも冬くゝ秀れあをとゝの里は空

土御門院

後千載

ほくゝとくゝ人をふかぬ夜をあをの里は後ゆゑ

源兼氏

後拾遺

あをの風神くゝ夜半の音をゝしれとこの里を哀うれ

源兼泰朝臣

新後撰

苔の枕つの板つのはふとゝ分つあをの乃 郭公ひしゝ

後大僧都平惠

十五番

冬くゝ わかの里は篠枕あたてやふむ秋乃白露

定家

七瀬淀 飛鳥川のかゝとりくゝん

同書名所 又後撰

飛鳥川七瀬の淀ハ波もんあるとゝ波くゝ

風雅

あをの川ひゝ川淵くゝ成ぬゝん七瀬の淀は八月毎の頃

後鳥羽院

壬二

春の日も今幾日くゝ飛鳥川七瀬の淀ハ去くゝ

家隆

大國御魂神社 雷土村ハ今八王子ト称ス 神名帳三代実録出

雷丘 雷土村ハ

日本霊異記曰人皇廿二代雄略天皇の御宇廿三年小子部の栖軽とゝ有りけり時に帝小近く侍り大安殿小寝ける時帝と后とゝ共に枕ひ給ふ栖軽も共に侍りけり雷大に鳴ひらめく栖軽勅命を承て雷神を取て

小追り虚空に白眼く勅命を馬を弛く阿部の山田より豊浦寺

とゝて出ぬ雷ハ地に落ぬ栖軽勅命を去て

やとゝびくけり雷ハ小豊浦寺と飯岡の間に落ぬ

栖軽是を聞て叫て奏しぬ

いかゝ叫雷ハ雷光殿舎に入ぬ

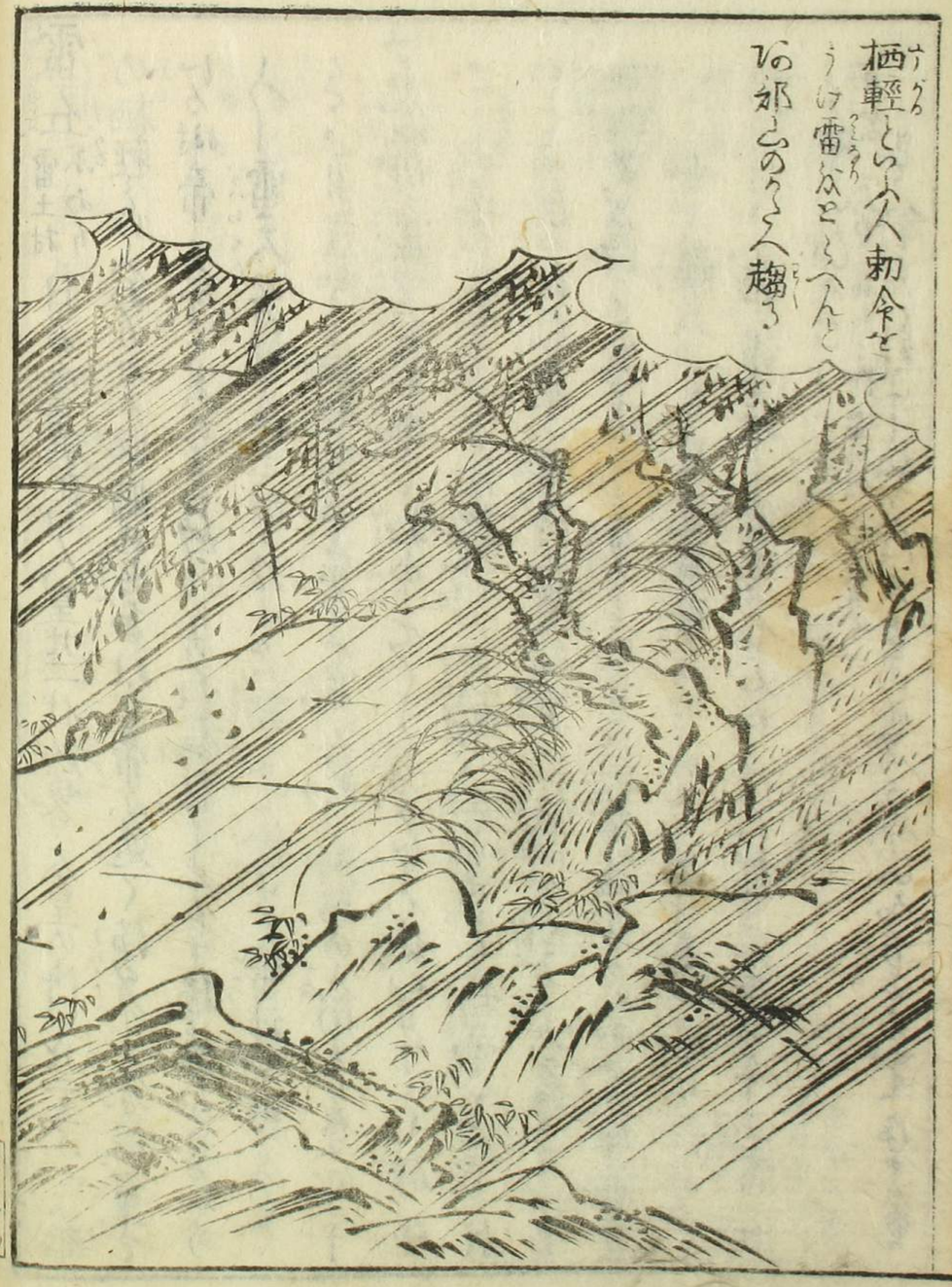
はゝ雷ハ幣帛を供し賜ふ人さもの人其おちる所を今小雷丘

とゝ名付ぬ

万葉 天皇雷丘小御遊の時ふるゝ

とゝ人ゝ雷のゝ人小いかりとる

作者人麿


栖輕しい人勅命を
うけ雷かとゝへんと
なの邪ゝのゝゝ趨る

天文指南云
雷は陽氣に
みしてかゝ屬
けるを云へ地氣
上り升ること日
月に天頂に迫
づく地と雷ーゝく
熱をうしなはゞ雷あり其
勢い猛く相逼て搏激ー
雲霧を張て水を或は繒
を裂の如くうの鼓を鳴ーく
聲かうしなの如くゝ

矢釣山（上八釣村の山方にあり）八釣宮（人皇廿四代顕宗天皇遷都ありし所なり紀に三月上巳の日曲水ありしかの人家流）

万葉 矢釣山木立も見えぬ花ざかり

日 矢釣の名所歌にはよめり

大原（八釣村に荒墳あり新修陵）

万葉 我里に大雪降るとかつて大原の古りにし里を思ふかなしも

（人皇賜藤原氏初めて人臣の墓）

藤原（大原に所異名なり）

万葉 藤原の古ふる里の秋萩はいたくな散そ君が来まで

藤原宮（大原村にあり延喜式に藤原造営あり）

（大織冠の大宮殿なり）

人皇四十一代持統天皇飛鳥の清御原に宮ありしかの時の都なり紀慶

藤原の宮に遷都ありしかの宮に八年に遷都ありしかの宮に定め給ひし宮中に百姓一千五百人烟

元年十一月をもつて藤原宮に定め給ひし宮中に百姓一千五百人烟

公入りの布施ありし人に差あり後日紀

上せり 帝王編年 四十三代元明天皇四年に藤原宮を

大織冠藤原節墓（土人曰藤原のかたより小大織冠の誕生の地なりしかの井なり）

即藤原の御井の清水（大織冠鎌足公和別高市郡人なりて釈書）

藤原の第にて推古天皇廿二年甲戌八月十五日小生まれ（一説）

藤原常陸國にて出誕しかの人家記

根命の御子なり藤原の内大臣鎌足なり

みかどおもうのしるし勅あり東宮（天武天皇公の家に嫁御子なりしかて）

大織冠と大臣の位階なりしかの氏を賜はりける其盛日寿五十

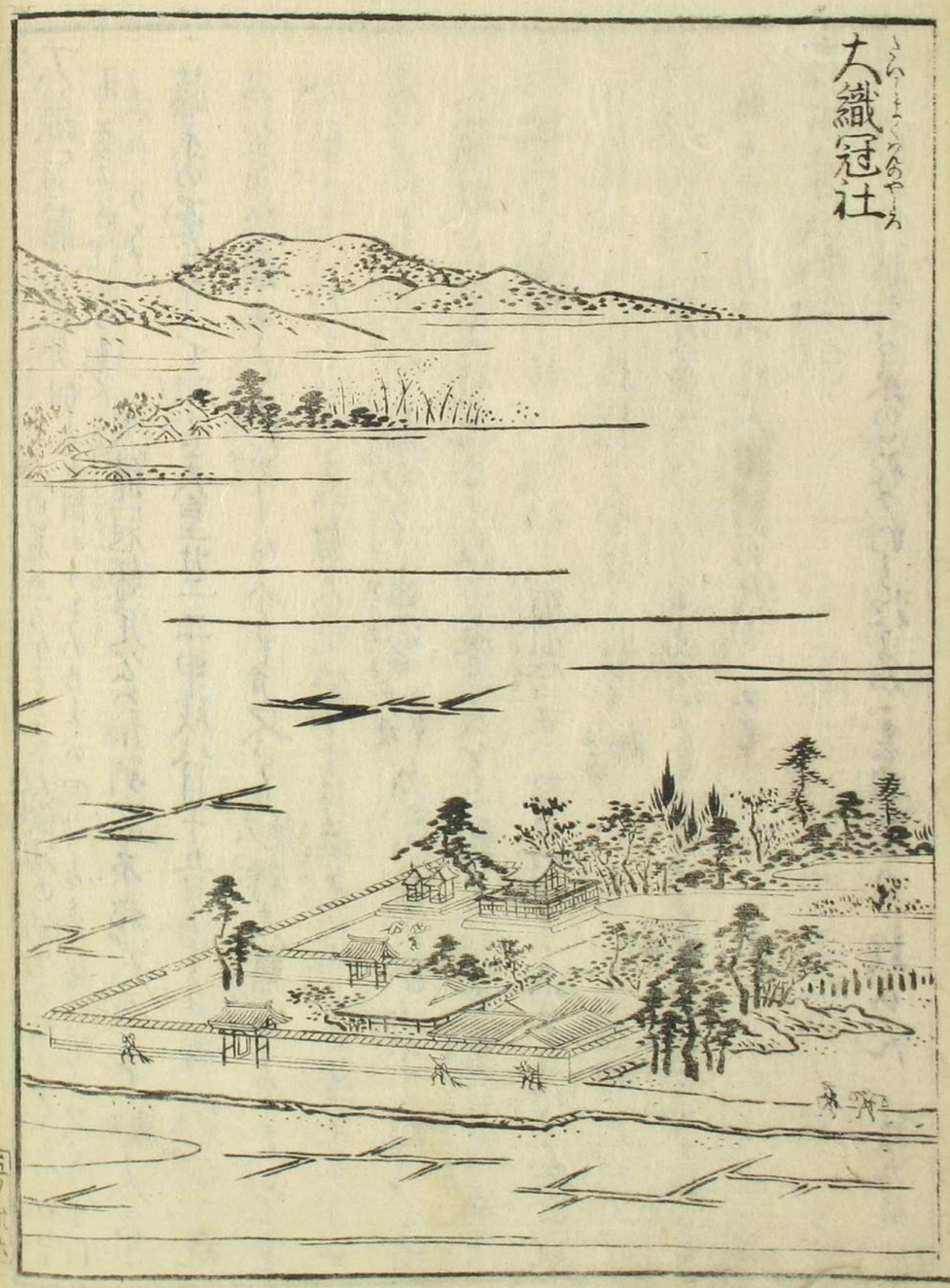
六歳にて薨し給へ（一説五十九）大織冠は正一位の冠なりしかの位にいたれ

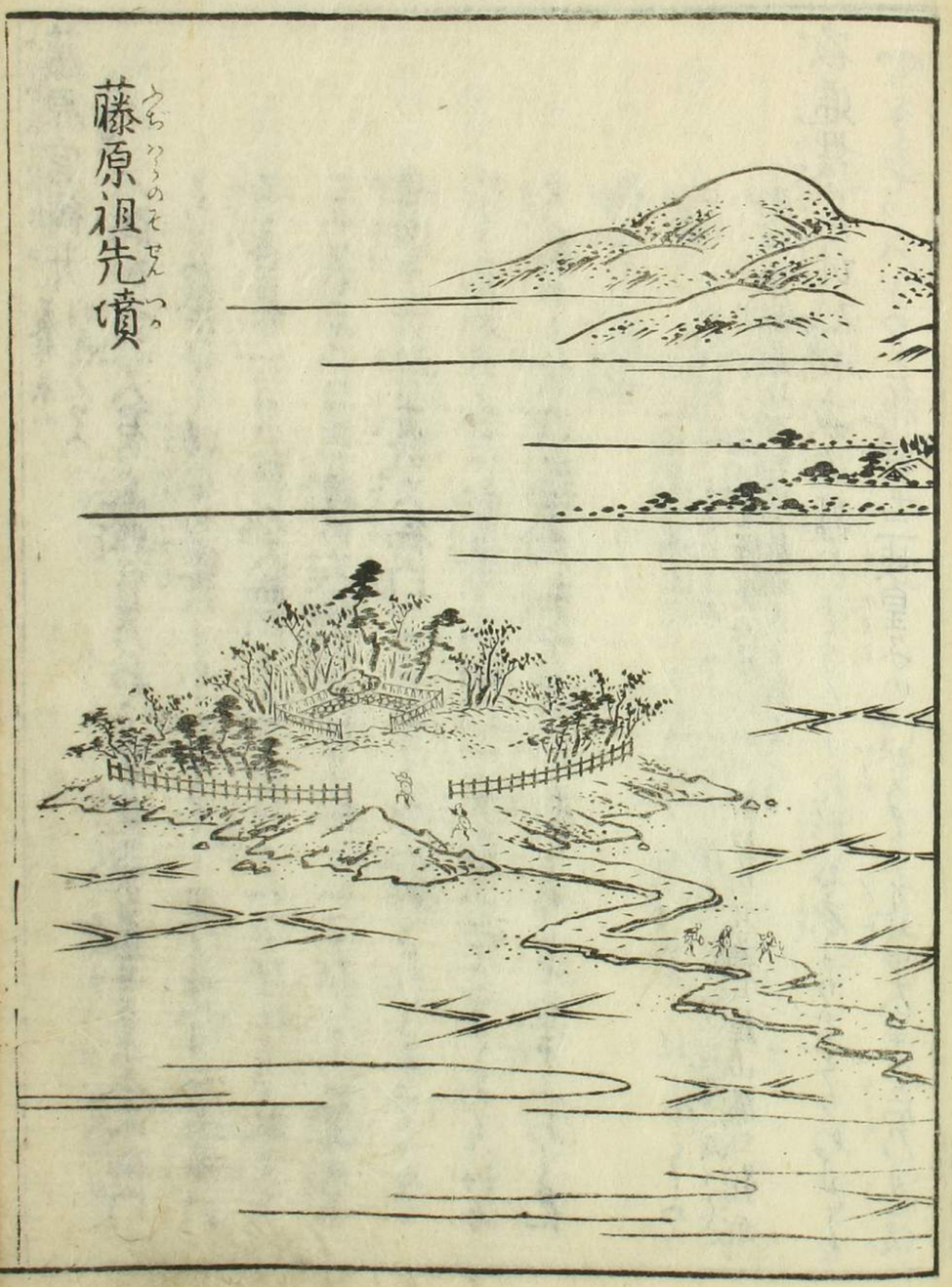
法光寺（舊址不詳）拾芥抄曰法光寺中臣ちかひ公あるいはわく

藤原ちかもいろり大織冠の氏寺なり

藤井原（藤原御井と日所今云祥）

藤の藤井原のそばにたるまの若くあらん 塩九條


大織冠社


藤原祖先墳

藤原宮御井　藤井が原

万葉　八隅知之我大君の高照す日乃わかみこ麁妙の藤井が原に大御門
はじめ給ひて埴安の堤のうへにありたゝし見し給へば日本の
青香具山は日の経の大御門に春の山としみさびたてり畝火の
この美豆山は日の緯の大御門に瑞山と山さびいます耳成の
青菅山は背友の大御門によろしなへ神さびたてり名くはし
吉野の山は影友の大御門に雲居にぞとほくありける
高知や天の御蔭天知や日の御影の水こそは常にあらめ御
御井の清水

此歌のこゝろは詞林採葉曰藤原の宮に東西南北の大御門をたてられたりその
二門は日の経緯にとりて方角をあらはせり後の二門は
めしとぞいへり因謂日本紀以東西為日経以南北為日緯山陽日影山
陰日背面是以百姓安居而天下無事焉

夜通媛家址　在所不詳

夜通媛はいとうるはしき形容衣よりとほりかゞやけり
かくそいふなる也稚渟毛二岐皇子の御女にして允恭天皇の后乃忍坂
大中姫の御いもうとにてぞ侍りける天皇夜通媛をめし給ひしか
かくも姉君のこゝろにおそれてはゞかりまゐり給はざれば御使七度に及ぶ
つゐに後舎人中臣烏賊津使主詔をうけたまはりて夜通媛の
はゞかりて君はまゐりませねば我ぞいたづらに罪にあたらんとて
家にいたりて身をうしなふともかへらじとて庭の内に伏して七日に及ぶ
いまはやむことなくまゐり給ひしかば藤原に殿屋を建てすへ給ひけり
天皇藤原にいでまして衣通媛の消息をきこしめさんとて垣見
させ給ひしに夜通媛ひとり君を待かねてぞ　日本紀

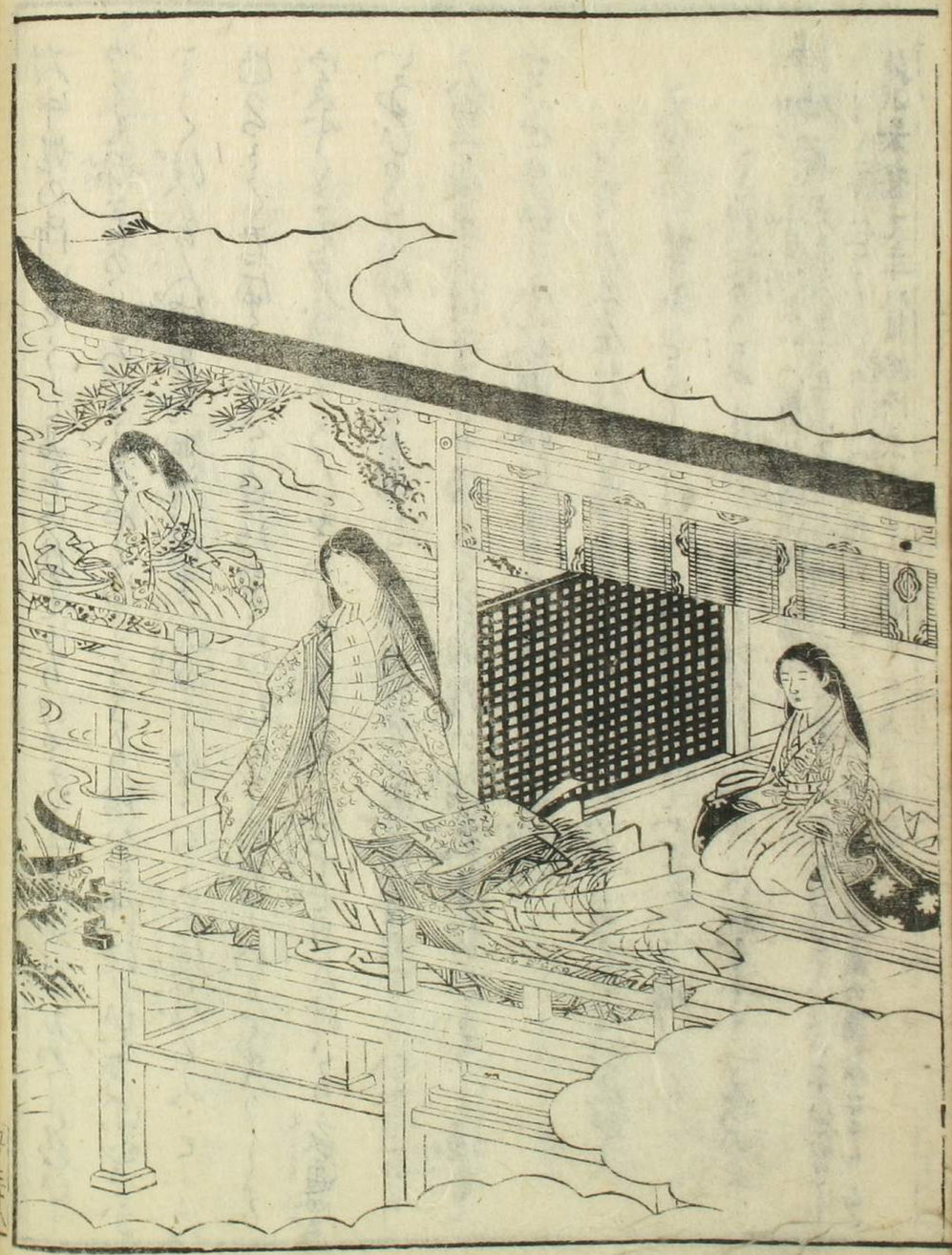
わがせこが来べき宵なりさゝがにのくものふるまひかねてしるしも

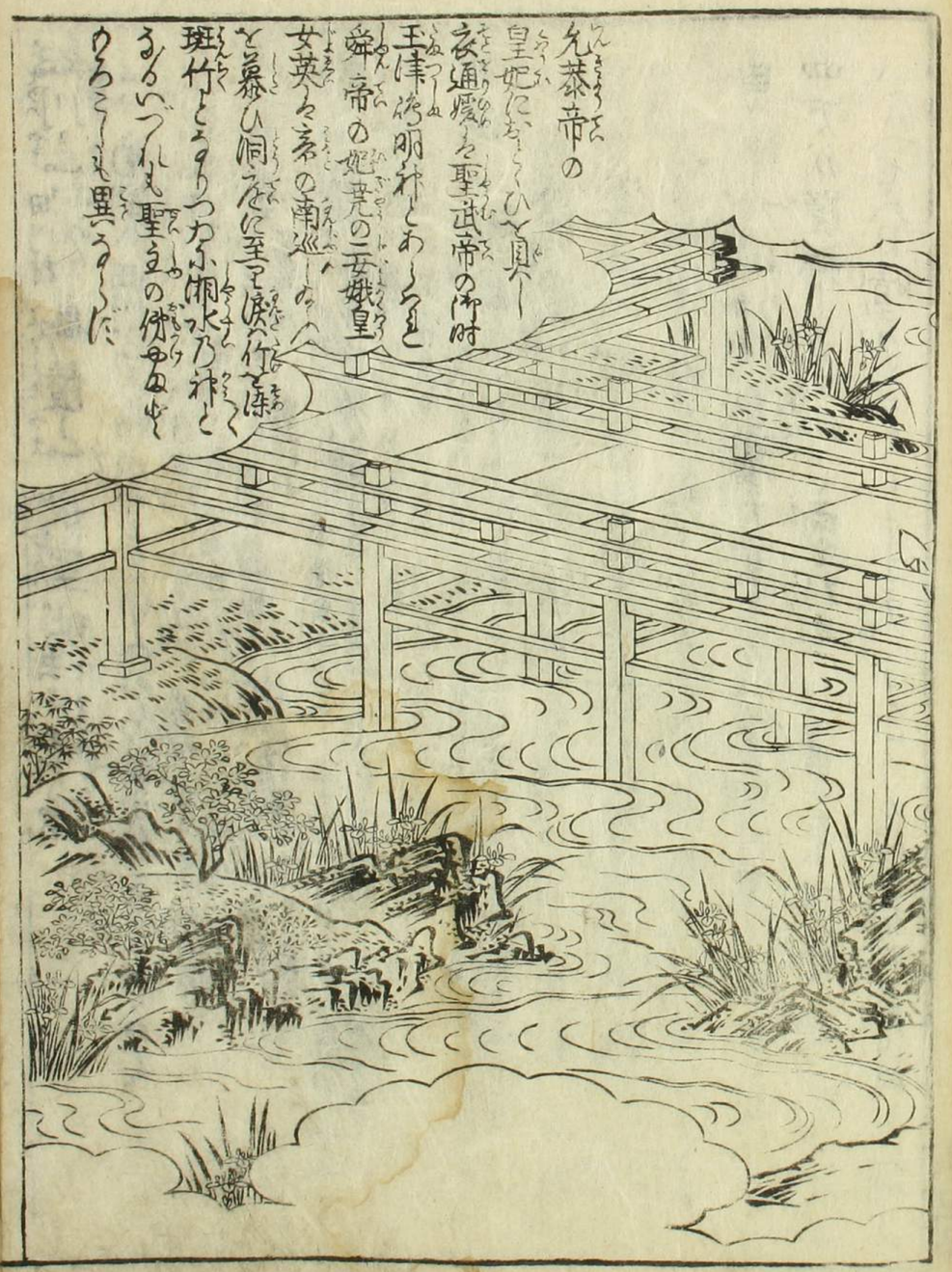
天皇此歌をきこしめして御心にかんじおはしまして

さゝらがたにしきの紐をときさけてあまたは寝ずにたゞ一夜のみ

浄御原

上居村にあり或は浄御原ともいふ旧名細川
天武天皇元年に宮を浄御原に造らしめ號して浄御原宮といふ
しかうして即位ましまして遷都ありて群臣より経営の圖をたてまつる
後に朱鳥元年八月浄御原宮にて崩しまします　日本紀

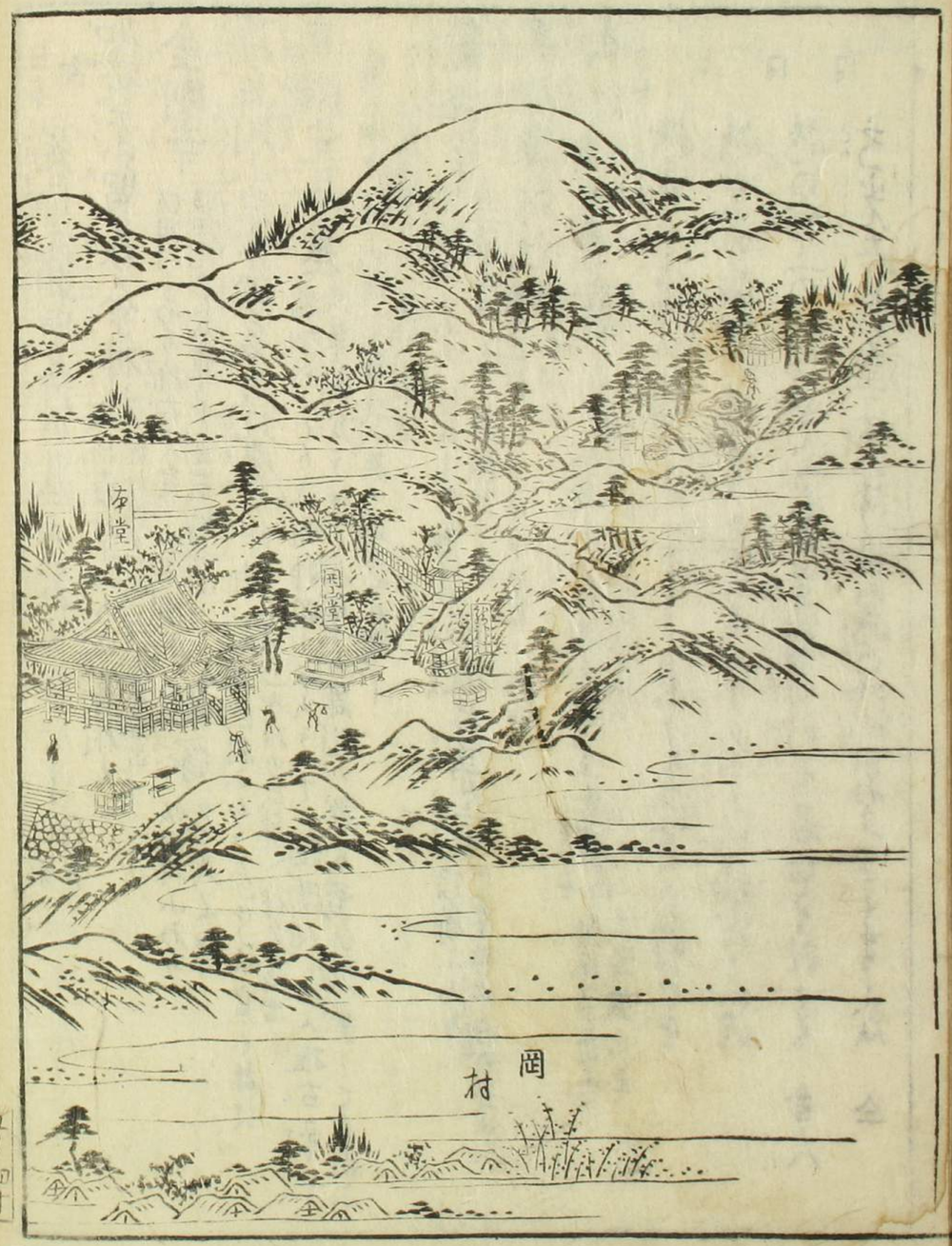



允恭帝の
皇妃になりたまひ
衣通姫を聖武帝の御時
玉津洲明神とあらはれ
舜帝の妃堯の二女娥皇
女英を帝の南巡ハ
を慕ひ洞庭に至て涙を竹に注
斑竹となりつゝ湘水乃神と
なるいづれも聖主の佛母
なるこゝも異なるべし

細川山 細川村ふあり 御陵山 氷室址 共ふ細川山の
[illegible] 南渕の細川山そ樹あるはゆみのわ系今さのうこのも
氣都和既神社 上村茂古社ふあり傍ら瀑布あり云こ二社
細川上居尾曾の二村氏神ふ共ふ
淺茅原 ふ曾根村ふあり桃樹繁殖し 氷室址 ふ多根の
[illegible] 義紀あり
滑谷岡陵 舒明帝滑谷岡に葬つ其後押坂内に遷れと日本紀ふあり
大仁保祠 入谷村ふあり今春日と称し
南渕山 細川山のうくひの上れ山ふ
[illegible] 王林抄ふ曰橘ちより八十町ぞり
[illegible] 細川山のみかどちらくよりり
[illegible] 向南渕山の岩ふ
[illegible] 人九
[illegible] 南渕山ふ乃谷川ふ
[illegible] 定家
[illegible] 南渕の山の上ふ
男渕女渕 畑村ふあり 皇極天皇元年月南渕の山の上ふ
四方ふ跪拜し天ふ仰く雨を祈ふ人に雷言ふ忽ち雨ふ地ふ
[illegible] 百姓萬歳ふ稱し

日本紀 足郡元朝四方拜の基ふ
加夜奈留美命神社 柄森村ふあり今葛神と称し神名帳二代実録出
金剛寺 坂田村ふあり 推古天皇十四年南渕 都塚 坂田村ふあり
飛鳥川上坐宇須多岐比賣命神社 稲渕村ふあり今明神塚と称し
南淵先生墓 稲渕村ふあり今宇佐宮と称し
[illegible] 中臣鎌子連と蘇我入鹿の逆意ふ顕し
[illegible] 田麻呂第宅 門新ふあり 大宰帥宇合の五子
龍福寺 稲渕村ふあり境内ふ竹朝倉の墓表あり文字剥滅し
呉津孫神社 栗栖村ふあり今下の宮と称し
勾沈 島荘村ふ真名沈 勅撰名所に高市郡ふ 嶋宮 勅撰名所ふ
[illegible] 嶋宮勾の沈の放名人目不[illegible]
[illegible] 嶋宮のはかの沈あるとふ
[illegible] 嶋の宮上の沈あるとふ荒備勿好ぞ石ほとんとも 舎人
[illegible] 元正五日の皇子のいはーせ嶋の御門あとーまーし 仝

岡寺
方丈


本堂
岡村

東光山龍蓋寺一名岡寺舒明天皇の皇居岡本宮の地なり

義淵僧正の開基なり西國第七番の順礼所なり

義淵僧正いとけなき童子の時天智帝いつくしみやうしくて皇子と同しく岡本宮にすくし成長なひ出家し給へとなり給ひ者となりし入唐熟学し帰朝の後大和國に帰り

龍蓋寺龍門寺龍福寺を造営し大寶二年僧正に任し神亀五年十月に入寂し禮部に勅して喪事を監護させ給ひ釋書

十一面観世音菩薩は如意輪観世音菩薩なり此佛胸に籠らせし小佛は孝謙帝の御念持佛なり唐土稽首君の作一擇の半二臂如意輪人身除厄の観音なり中興弘法大師二國の土なりし丈六二臂の像なつくりかの小佛を佛胸に収めし入寂初号削道境にちなみひしは稽首君父の命ふそむき害せらるるなり逃のびし龍蓋寺に入枕の林に隠る道境を曰延稽首君を厄免ふかるの卦あり如意輪を作りし命を帰金佛を作りし其疫を免る道境に号像を造りし孝謙帝ふなり

其後伽藍を造立しかの尊像を安置し毎月初午日天皇に奉る

丈六の尊像の式あり又拾芥抄曰丈六の土佛に号削法皇の造立なりそなり

より炎上ふるしこれを入り又除厄しかの像のよりあ境にあり

いせり奥院の霊あり弘法大師龍神を祈りて祈りしに忽清泉洋々

として溢湧せり諸人これを飲みて厄疾をのがれしそ

後園紀登佛曰高市郡延喜帝の人撰集鈔通要抄曰橋寺の艮十余町これを小原と

いふとの聖德太子十一歳にして童子建二十六人を誘引ひて後園に

出て詩賦のあそびあり小童子多ら遥ふとしりたまふ童子をもてあそ

ひしく句句を延しかの顔に沿りしに其親々称くの延文をつくりくとりたまふ

其餘を一く諦よしかいひしといふるふし天皇用明帝我兄聖今

もは爭かくるあんやと厳重ありしかを妃ふさしこへ抵ひ

平氏作

遊囘丘

風雅
旅人のゆきゝ
思ひ
名のみしく
花ふきぬる
春の木ぬ
な
ゐ家

逝回丘（ゆききのをか）　岡飛鳥二村の間にあり

万葉　明日香の逝回岳の秋萩は今日ふる雨にちりかすぎなん　丹比真人

続古今　行人のゆききの岡も白妙のあとさへたえて雪やつもらむ　家隆

新後撰　飛鳥川ゆききの岡の葛かつらしたはやあきの色にかはらん　香花園入道前関白左大臣

岡本宮（をかもとのみや）　舒明天皇の皇居也又斉明天皇も岡本宮に遷て後飛鳥へうつし給ふ日本紀に見えたり　王林おもに曰岡本宮は橋寺のひがし逝回岡也今の岡寺の地に礎のこれり

治田神社（はるたのじんしや）　岡村にあり今八幡と称す

遊岡（あそびのをか）　桜ヶ本逝回岡と同所歟　大和志高市郡文苑の條に載るは未考

夫木　笛吹の社の神はこれにしく遊の岡やかり通ふらん　大納言之任

倭彦命墓（やまとひこのみことのはか）　檜口村に窟あり一丈四方なり

人皇十一代垂仁天皇の母后の御弟なり其廿八年十月にかくれさせ給ふ十一月身狭桃花鳥坂の陵におさめ奉る其時近侍の人々を殉死として生ながら陵のめぐりにうづみ給ふ日を経て死ず昼夜に泣悲む声を聞召し天皇これを聞召て御心に悲傷し給ひ是より以後此風俗あしきことなれば後年止むべしと群臣に詔し給ひぬ　日本紀

鬼厠（おにのせつちん）　鬼肉几（おにのまないた）　倭彦命の陵より西なる田の中にあり是則石槨にして石蓋なり　世の人いにしへ年経ぬるとぞいひ伝へておほけなくおそれあへるにや　大和志曰倭彦命の墓石槨窟中方丈餘あり大石五片をもつて作る磨礱精功にして今半は毀る石槨石蓋路傍にすてらる土人鬼厠鬼肉几と呼ぶ

檜前川（ひのくまがは）　前は隈なり源は高取山よりながれて檜隈を歴て真弓に至て真弓川といふ

亀山殿七百首　駒とめてなほ水かはむさゝのくま檜隈川の水のしら波　御製

古今大歌所御歌　さゝのくまひの隈川に駒とめてしばし水かへ影をだに見む

続後撰　駒とむるひの隈川の底清み月さへ影をうつしてぞゆく　権中納言長方

玉葉　駒とめて影見る水や濁るらんひのくま川の五月雨の頃　中臣祐成

於美阿志神社（おみあしのじんしや）　檜隈村にあり檜隈大根田二村の氏神とす　僧舎を道興寺といふ

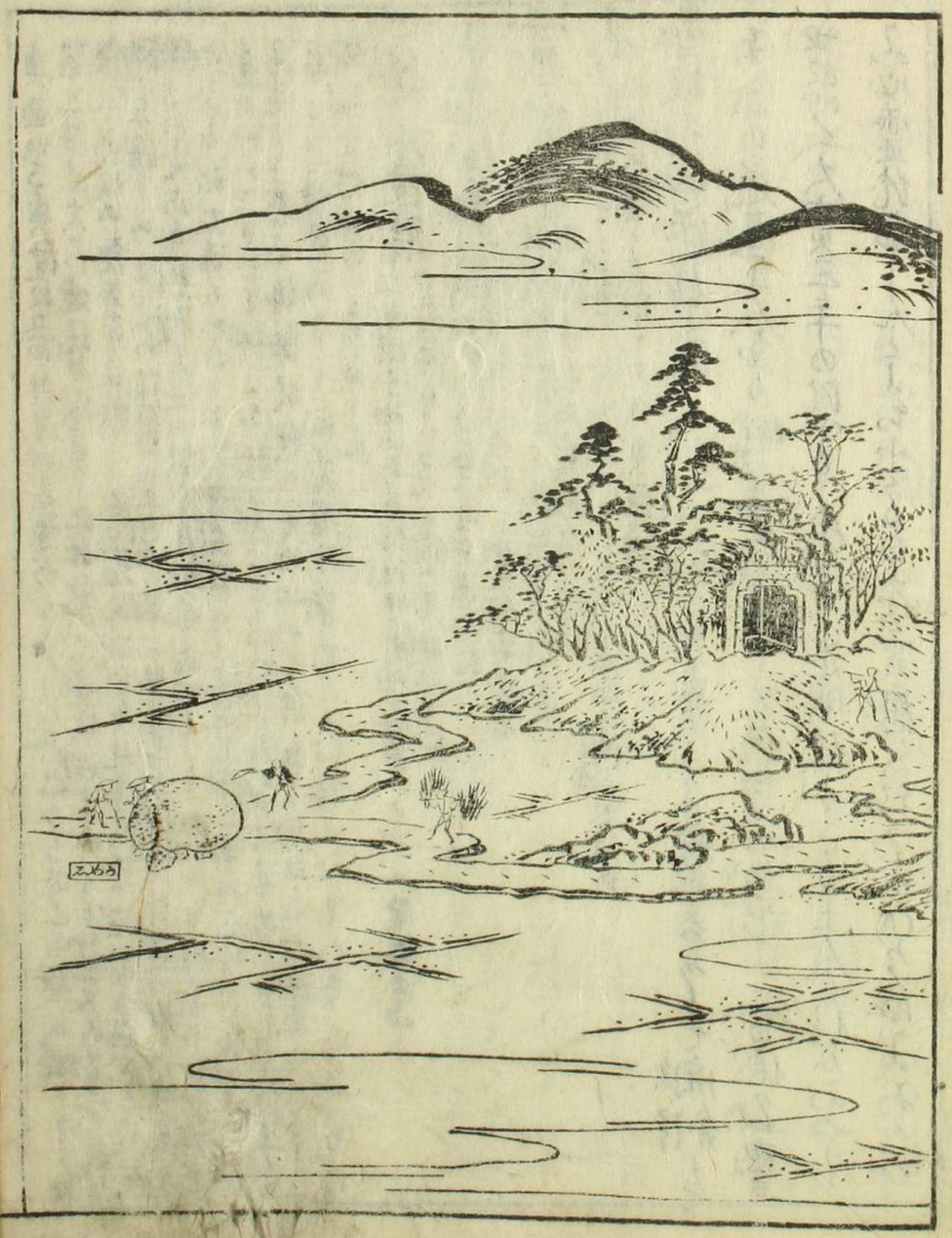
欽明天皇陵（きんめいてんわうのみさゝぎ）　平田村にあり俗に梅山といふ　陵考図云此陵は御陵山ともいふ周廻三十四間高サ八間根廻り三十間陵上に礫多くして陵上に葺たり　此陵の辺に石仏の四躯あり内二躯は首あり一面にてありて又西の像の又二躯は膝の傍にも面貌の形あり其のありさまに似たる四軀の面貌の形あり元禄十五年十月五日平田村池田といふ所より掘出せし石像なり面貌猿の面のごとく掘出しの時山王権現と称す是妄説なり似たる故に足られし郡吏の取上ぬ

倭彦命窟 土人武列の窟こいう人

鬼厠

鬼肉几

亀石



奥壺坂ち奥院に五百羅漢の石像あり[illegible]
[illegible]壺坂の観音小立願[illegible]
[illegible]あり[illegible]百の石工名一躰二躰[illegible]
あり[illegible]初て造りし[illegible]四軀[illegible]石[illegible]
意に叶はざるに[illegible]捨て[illegible]
[illegible]悉く仏躰成就のものにあらざるもの[illegible]
久しく埋もれありしが元禄中穿出し[illegible]梅[illegible]

文武天皇陵 平田村の西にあり俗に中尻の石墓と云ふ人陵圖考に
[illegible]ない高取と云ふ[illegible]二尺廻二十間

子島神祠 小殿村にあり今去日と称に
[illegible]村と共に氏神[illegible]三代実録出
霊鷲寺 [illegible]谷村にあり桃原と號に
[illegible]家敬の墓あり

高生神祠 [illegible]と云ふ三代実録出 天正年中清水谷村に

壺坂山南法華寺 清水谷村の東にあり 本尊千手観世音[illegible]開創
壺坂と云ふ[illegible]
南京の道基上人[illegible]拾[illegible]上人[illegible]
世に[illegible]大寶二年の[illegible]光明[illegible]上人[illegible]
[illegible]日夜霊應[illegible]

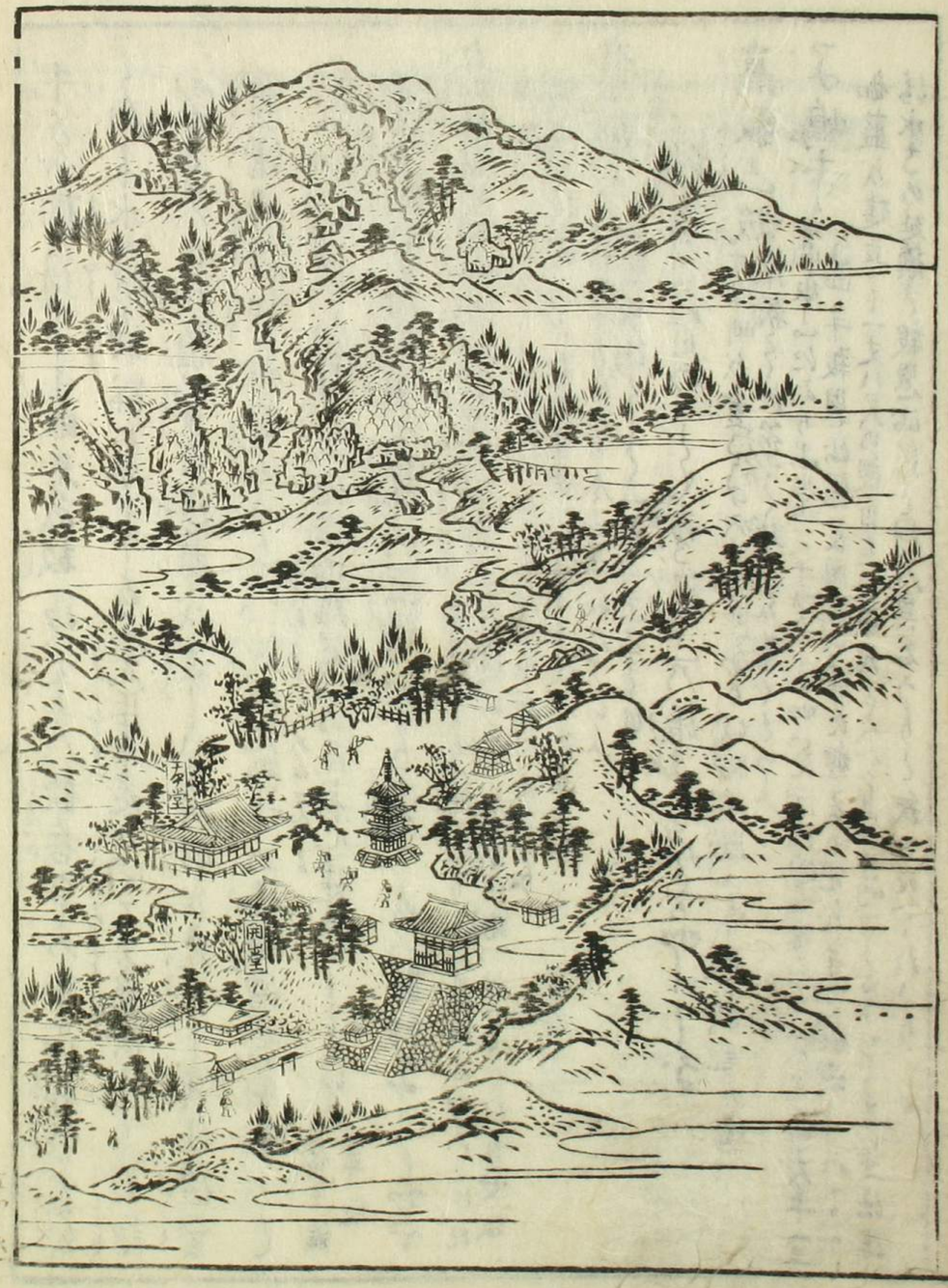
千手の相[illegible]現し千眼光[illegible]放[illegible]上人歓喜[illegible]
[illegible]水精の壺に納め安置[illegible]元正帝定[illegible]
[illegible]大士の内證八葉の蓮華[illegible]八角の殿[illegible]建営し其外禮堂
寶塔[illegible]楼經藏巍々[illegible]又一説に元興寺の海辨僧正の開基とも
いへり 伽藍開基記 又大寶二年に佐伯[illegible]足子の尼[illegible]心建立[illegible]
鎮守祠龍藏権現[illegible]若那川[illegible]根[illegible]
五百羅漢石 両界曼陀羅石 壺坂ちより八町[illegible]高取と[illegible]
巨巖あり[illegible]石面に彫つけ[illegible]壺坂
奥院[illegible]
傍に石燈爐あり 勒日慶長十一年[illegible]
鷹鳥鞭と云ふ[illegible]峠[illegible]
相撲家集 [illegible]

[illegible]人の[illegible]日あり[illegible]
高取と城 [illegible]町[illegible]
南朝[illegible]城路羊腸[illegible]
子嶋寺 高取[illegible]
字四年報恩[illegible]
伽藍[illegible]建立し一丈八尺の観自在の像[illegible]
清水寺の延[illegible]報恩[illegible]

壺坂寺

秋きしを今ハ
石の佛達

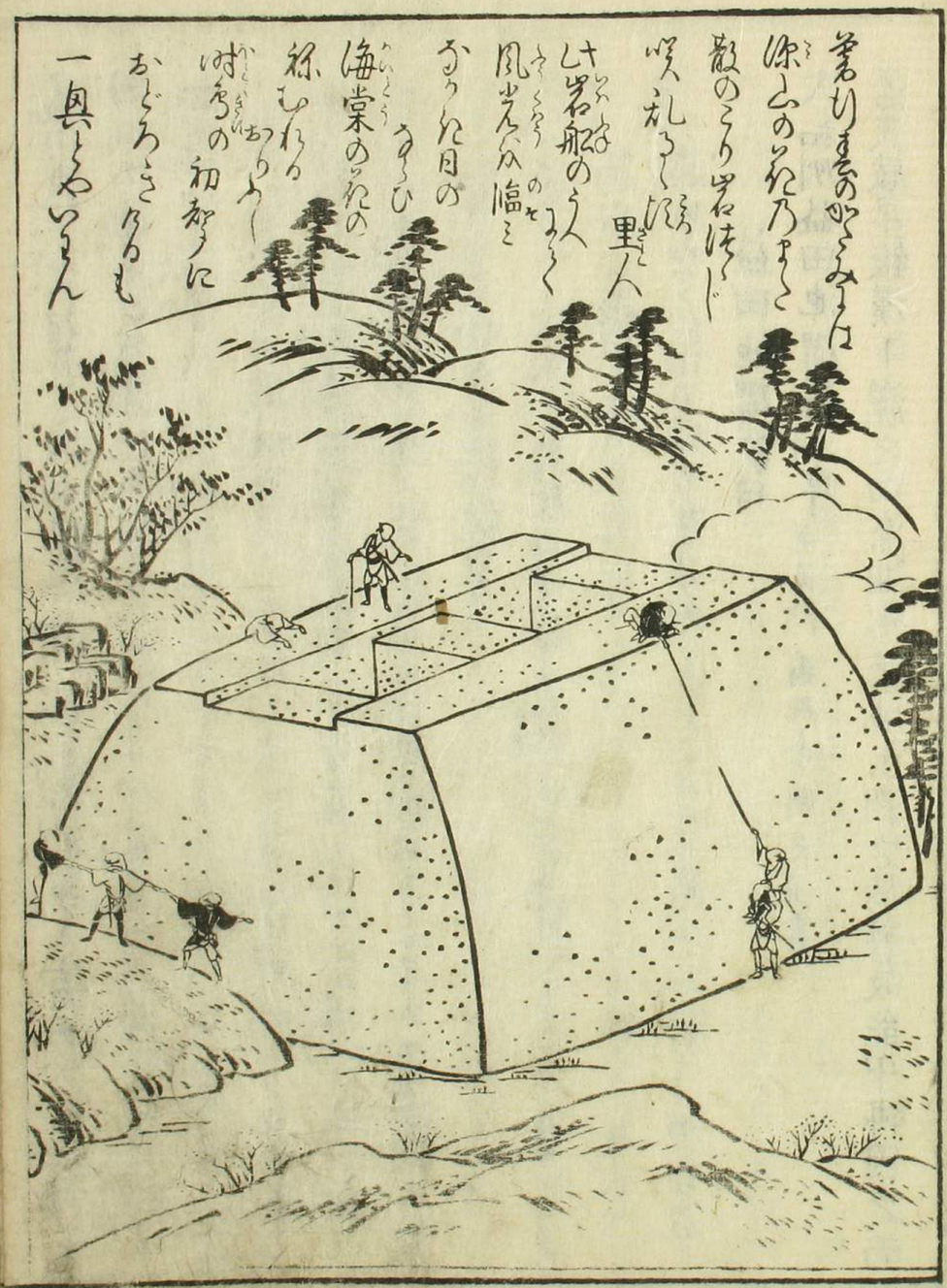
蝶醉



竹取 今高取と書り詞林採葉曰竹取の翁八頃を大和國に竹取城あり
園大綱の里に住し人なりとぞ別の
人なりと竹取翁あり　むし竹取翁といふ人ありけり
季の末乃月に岡よのぼりくるを見けるふ九人の仙女
をひ乃り公
死び人をあひんびわ〜めせくあ〜を白髪の老たおひざ〜ゐやも
ゑをとゝ乃多のよゐる歌九首あり　妻い万葉集に
波多張井神社　羽内村ふあり今天照太神と称ス神名帳
二代実孫出傍に清泉あり
佐田丘　佐田村ふ入あり　重坂川　源菅上郡ゟ流れ壺坂川と落合ひ
檜隈川ふ入
豹ゑんていぐ久ふ泊ゑん佐ゑ川に入ぐ
櫛玉命神社四座　真弓村ふあり今八幡と称ス　真弓丘　真弓村
神名帳二代実孫出
ふあり
然村ふ　真弓丘陵　然村ふあり
許世都比古神社　然村ふあり　今五光神と称ス
齊明天皇陵　北然智村の東北ゟ
俗ふ升塚と云ふ

巨勢山坐石椋神社　名倉村東南ふあり　今春日と称ス神名帳出　鳥坂神社　名倉村の東ふあり
今天照太神と称ス
宣化天皇陵　名倉村ふあり陵考圖云ふハミサンサイと云ふ　石椋小野　名倉村ふあり　年佐坐神社　俗ふ焼ノ神と称ス
十二間廻り百八十
七間池あり外ふ小塚ゟ中ふ大ゐるゟの土人曰武内墓と云ふ
天神と称ス　村ふあり神名帳出
益田池　大和志曰弘仁四年隍　北ゟ池尻ふ流れ南を檜隈
高二丈計
縦二丈五尺横一丈二尺上に両方の孔ふ鑿一槽〜碑身を今ゟ
其後釋空海性靈集ふ云〜
久米ちのゐゟ花生ゟ〜ゐ
つゝそ池尻村〜ゐ足ゟ南ふ碑を〜ゐ墓石今ふのこ〜ゐ池尻ゟ
こゝそ里ゟ南ふ碑ゟ〜ゐ太の池と云ふ〜ゐ
今ハ僅ふのこ〜ゐ芝ゟ〜ゐ所ふ弘法大師の建
ゐひ〜碑の破石あり碑ハ〜ゐ〜ゐの池の岸ゟ〜ゐ
由緑を考ゟ〜ゐ其碑文世ふ伝ゟ〜ゐ
ゐ碑の代ハ〜ゐ人の外ふ〜ゐ〜ゐ
宇ゟ〜ゐ〜ゐ試ゟ〜ゐ〜ゐ連続〜ゐ〜ゐ
一説曰益田の碑石ハ高取城の石垣に積込あり
ゟ城ゟ〜ゐ〜ゐ方に〜ゐ〜ゐ
断碑の悪ゟ〜ゐ〜ゐの代ふ敬ゟ〜ゐ
縦横放蕩ゟ大
ゟ至ゟ〜ゐ
ゟ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ
ゟ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ
ゟ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ
ゟ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐ

益田岩船



春日すなのかすみ立
源しの花乃ゆき
散のこり岩ほど
咲れるこれ
里人
十岩船のうえ
風光る山臨
かすみ花月の
海棠の花の
紅むれる
はるの初夢に
おどろかさるも
一興とやいはん

益田の旧名に村井と云り此地に漢直の舊宅あり 清寧天皇三年
田畑の拓くるに愁ひ多し弘仁年中和大和守藤原朝臣池主
紀伊守末等に所の地理住るるに依て池を穿ん事を願ひ奏
しかるにやすく勅許あり一方の縄を末等直園律師と共に池を
掘せり大伴泰嶺國道和州太守藤原廣世池の撿校職に補せ
らるるに或人曰旱魃に田に益の功あり一方益田池と號
せられるるを伝ひ聞る
金系 波せるに伝ひ聞る孫家宝
後千載 思のごと益田の池のそこなりに水を絶ぬ笑をうるはせ 後成女
新後撰 思のみなる田の池の水のそこなしに知れぬあやめの根を礼はく 順徳院

益田池碑銘曰

大和州益田池碑銘 并序 并沙門遍照金剛文并書

若夫感星銀漢下灑之功深湖水天地上潤之德普故能中岳因之而

聳茂蟲卯賴之而長生至若八氣播殖五戈陶冶北方之行偏居其最
坎之爲德遠矣哉皇矣哉粤有益田池兩尊鼻子之州八鳥初導之國
地是漢諳之舊宅号則村井之故名去弘仁十三年仲冬之月前和州
監察藤納言紀大守末等慮九陽之可支歎膏映之未開占斯勝處奏
請之綸詔即應爰則令藤紀二公及田律師等叔功未幾皇帝遊駕汾
襄藤公從之辞職紀守亦遷越前　今上膺竟揖讓馭舜寶圖照王燭
乎二儀撫赤子於八嶌簡伴平章事國道代撿國事並拔藤廣任判史
兩公撿校池事於雩青晁引塊數千之馬日聚赤馬驅人百計之夫夜
集既而車馬轟々而電往男女礮々而雷歸土零々而雪積堤修忽而
雲騰宛如靈神之挺埴還疑洪鑪之化産成也不日畢也不年造之人
也辨之天也爾乃池之爲狀也尤龍寺右鳥陵大墓南聳畝傍北峙来
眼精舍鎮其艮武遮荒壠押其坤十餘大陵聯綿虎踞四面長阜遶迤
龍卧雲蕩松嶺之上水激檜隈之下春繡映池觀者忘歸秋錦開林遊

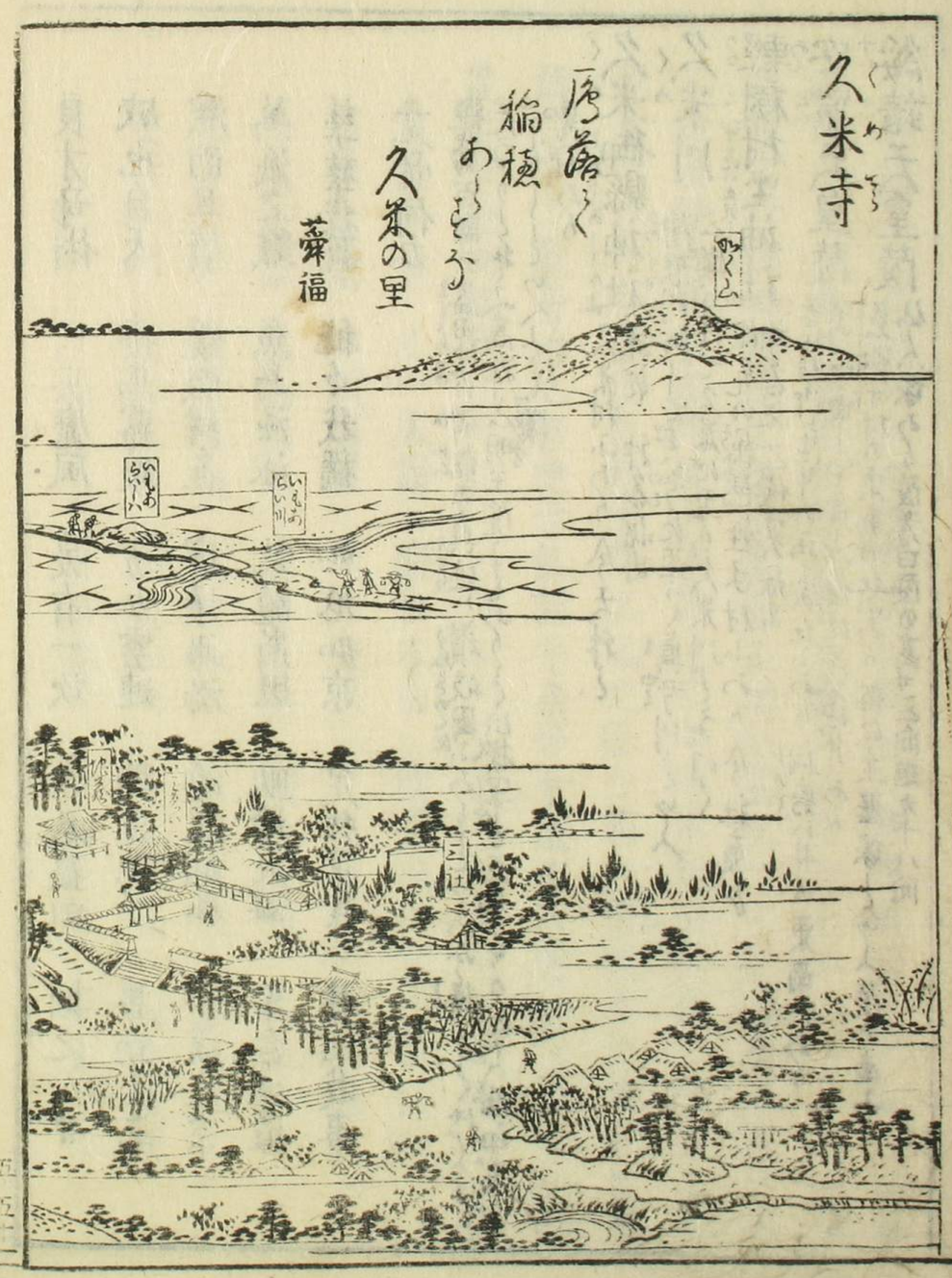
人不俟鴛鴦鳧鴨戲水奏歌玄鶴黄鵠遊汀爭舞亀鼇延頸鮒鯉掉尾
淵獺祭奥林烏反哺泊如積水含天疊山倒景深也似海廣也超淮笑
昆明之非儔哂耨達之猶少虎嘯鼓濤則驚汏汏漢龍吟決堤則客與
不飽裏陸之罔象不得溢其塘燋山之女魃不能凋其底六郡蒙潤禹
澮湯々一人有慶兆民頼之舞之蹈之詠千箱以擊腹千之足之唱萬
歳而忘力歎蒼海之數變索銘詞乎余筆貧道不支當仁固辞不能謀
虚吐章迺爲銘曰

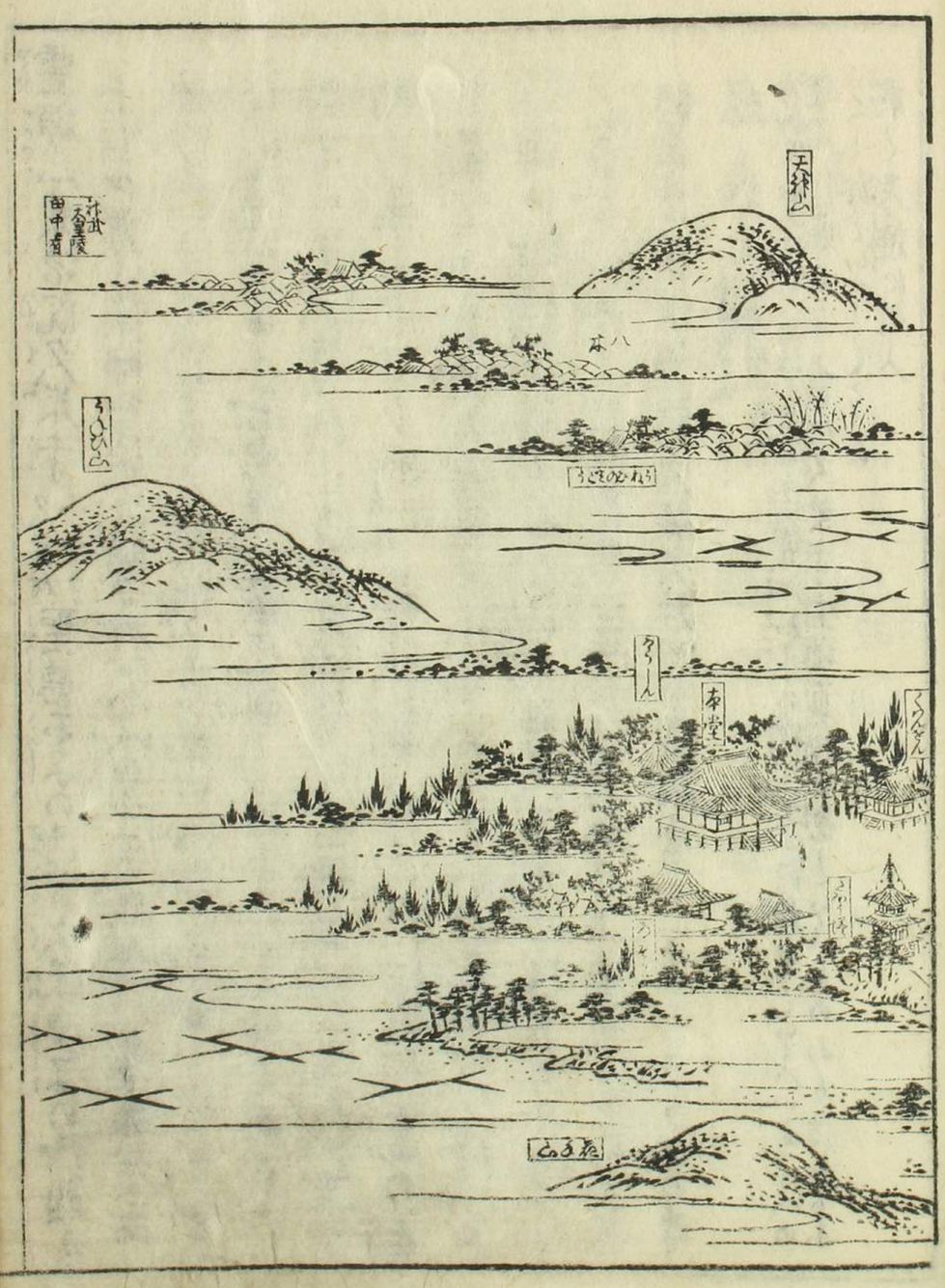
希夷象帝　丨一未萌　盤古不出　國常無生　元氣倏動
葦芽乍驚　八風扇鼓　五才縱横　日月運轉　山河錯峙
千名森羅　萬物雜起　藤層既隱　纓紙爰始　天地人地
灑霑功似　前亮後禹　慮厚恤人　智略廣運　慈悲且仁
機事不測　成功若神　潤物如雨　榮人似春　綸緻雷震
有司創功　紀藤薙草　杲續圓曹　伴相施計　原守在公
良才奇術　民具麁風　爰有一坎　其名益田　堀之人力
成也自天　車馬霧聚　男女雲連　歸来似子　畢功不年
深而且廣　鏡徹緋色　滉瀁渺渺　瞻望罔極　百溪之宗
萬派之職　魚鳥涇泳　虬龍斯匿　畎澮汎溢　留畜播殖
孳孳我執　穟々我穡　如坻如京　足兵足食　井田我事
亮帝何力

觀鷲百譚云益田池の碑銘の直延は瀧波國小[illegible]郡[illegible]今[illegible]
足[illegible]高野の明王院[illegible]

異同あり

久米御縣神社　久米村ふあり今天神と
久米川　檜隈川[illegible]
輕樹村坐神社　神名帳に[illegible]
安寧天皇陵　石田村和泉井の西小の丘ふあり祠[illegible]井の東南にあり
綏靖天皇陵　[illegible]寺村の東南の丘ふあり俗に主殿塚[illegible]陵の南ふ
仏人塚あり陵考曰陵の高サ二間廻九十八間


久米寺
原落く
稲穂
あらそふ
久米の里
蘇福
いもあらい川


本堂

靈鷲山東塔院久米寺　久米村聖德太子の御願ふ
ふあり
して本尊は釋師如來の丈像長八尺又皇子の感得の尊像なり釋師
佛の長一寸六分黄金の壺小納なり本尊の佛胸ふ安置の多寶
塔は書老年中ふ書無畏三藏來朝し當寺に二年住く南天乃
鐵塔のまなれしうり其心柱乃下ふ佛舍利三粒大日經七
軸ふ籠らるとり　佛法傳通記　其後延曆十四年弘法大師爰の若
ふ蒙つてく久米の道場東塔の下ふ七軸の經を埋まる
うるの人　釋四名来因寺ふ弘法大師久米寺と改字せ
ことり　東堂ふ善無畏三藏弘法大師の丈像を安置其外
地藏堂護法神祠は天滿天神を祭る緇素十二家あり久米寺
塔と称ス　妻家村ふ住ス　今の多寶塔を迎須彌師寺　仁和寺の塔ふ移ス
礎石ふ遺ス　又世に久米寺宝塔真柱の銘とて人々のあり信をるふ
載く考證に備ふ

久米寺寶塔中真柱銘（迷體一　弘一　作幽苦　作孤）

月九中一岸一閑居一一露五迷體弘身一一法
一不一隨一一一道一不一時苦一一

或曰空海之手蹟而高野山姫瑞和尚爲之附訓云云

今昔物語云今ハむかしの帝門表ふ大和國高市郡に道場し
ふに國の中れ夫ふ優しく其役しに出ることなく妻子の
者あり行事官の少あやーみくに妻子ふ同ふ
夫の者こゝへて曰はく吾ふ久米とやれ仏人ことなり
仏ことなり空に飛りしけるを吉みの年當國吉野郡龍門寺に行て法を習て
法つるふ日々ふ脇の左り々ふみくん法を弘則其妻ふ書こ
しくふに行りそれしりしくふ仏人ことなるとやに行事官
けて扶るやんことあさんにこと其妻の行法定く覺へくんがくなさ
ホふ行ようしたんけ久米はくちりひらい
我ふ仏法ふ行ひしくも欲にれく墮落ーねきうしらへ
年頃頼みたりー本ふいでのことひるくしら行事官
にむりいくあやこれとりこんとりあんこと
あくで極くこんとりあんこと
七日七夜行ふ八日にあこと出朝ふ
くあくこれこれ其妻にこれこれ空ふ飛く
造營の所にありまりくく行事官
ふん造伽人くくくと鳥行人今
ふふ仏人くる女の居し所し我

釋書曰
久米仙者和州上郡人
入深山学仙法食松葉
服薜荔一旦騰空過
故里會婦人以足踏
浣衣其脛甚白急
生深恋昵時蒙苔洛

つれ〳〵仙之
久米の仙人のあ
あ〳〵安のこゝろの
ゑたゝきなんを通な
うらうひくんゆこと
ゆあ〳〵ちくんゆこの
きゝゝふ肥あゝつき
くゝくんゆかの久
ゝゝ〇たゝも
あ〳〵んゝ

鬼頭田　石田丘の西ニ石あり〻仏生る頭二ツ田の中にあり其のこゝろみうるゆ
の頭うりうるゆ西の方に岡のうへに一ツいはれ〻炎王の頭小仰〻り一ツ法師
〻〻水ゆ〻へ〻りいと〻に俗ニ頭の池といへり又の池と十ヶ所邪頭の池の樣
こゝ〻ゆとかりへに陵の石櫃の蓋かくるゆ〻にとのつ〻水乃〻〻え
畝火山　畦畝村の上方にあり大和志曰巍巍〻〻て特立〻
談峰緣起便蒙曰　畝火　畝傷　雲飛　雲根火　八本村の南一里計
俗ニ慈明寺山と云
大和之山の一也山に
神功皇后の廟あり
万葉
思ひあまりいもをうるたまくしげ
家持家集
あけてをかばかりぬらめ
畝火山口坐神社　畦畝村の西畝火山腹にあり今神名帳に神功皇后〻〻
宮寺ゆ國ちしら人西の樣に神祠の此〻〻石あり今神旅所と云人
又山腹に馬繋と云所あり。畦畝。大谷。吉田。慈明寺。山本。大窪。日條。小世堂。
多の氏神あり毎年二月朔日霜月初子日播州住吉社より彌宜一人
土持一人僕二人馬一疋ゆ奉来て山の土ゆ取る舊例とす
の代〻り始り〻〻ゆ成り〻〻
山と巖石〻〻〻石出る又巖の陰〻〻陶器出る雨後〻〻〻〻
〻れゆ〻〻ゆ全く製造のものにあり〻〻岩堅〻〻〻
そのおの〻形勝いさゆ〻ありいづれも欠損〻て全さものゆ久し

桜是則いう〻〻の垣輪の類うる〻〻〻昔山地々萬預寺〻〻〻四十二院あり
〻〻其跡礎石多〻〻
懿德天皇陵　畦畝村の西纖沼溪にあり祠廟い村の東北ゆあり宮内イトク
ノ宮陵考圖ニ高五尺平芝廻四十五間垣廻四十二間山陵の西
ゆ荒陵あり沈尻村ゆ屬ス
傳ニ皇后の陵〻〻
娘子塚　大久保村　むか〻山所に娘子あり容顔義豔〻〻〻
人道路ニ顧〻賞ニ名ゆ櫻四〻〻又三人の壯士あり〻〻〻
ゆ要〻ニ乐ゆ逃ニ死ゆ貪〻相欲ス姫子〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻古〻〻今に至ゆ〻〻一女二門ゆ適今ゆ守〻〻〻〻二士の
意和平〻〻〻安ゆ身死して相害〻〻永〻〻〻〻林中ニ入〻〻
樹に懸ニ縊〻死ス萬葉集小序ニ見〻〻〻〻播州菟原郡に求女塚〻〻
廣明石名所圖会ニ出ス
大窪廢寺　大久保村ゆ址あり紀吉堂是ニ又地名ゆ
東金堂西金堂あり今高縣宮と称ス
高市御縣神社　日條村ゆあり今高縣宮と称ス
井谷井　紀伊村にあり　神八井耳命の墓〻
九旱ゆ竭ず　御陵山　小祠あり綏靖帝の兄〻〻〻

三八濃山

長寶寺

神武天皇陵 畝傍山の東北の高七丈八根廻三十間垣三十二間延喜諸陵式曰 畝傍山東北陵 畝傍橿原宮御宇 神武天皇在大和國高市郡兆域東西一町南北二町守戸五烟 古事記曰 畝傍山之北方白檮尾上 性靈集益田池碑銘序曰 畝傍北峙 前王廟陵記曰 畝傍山今案山の西南六里久米寺の北あり俗にいふ畝明寺と云ふ

東北の陵百年前これを壞つく蠶田とする民其田をもんで神武田と字して暴汚とうにして痛哭をべきものの如く數畝の餘じく一封こ農夫これを登ふ恬として怪とせずこれを觀にたんで寒んせどもこれをなるべし夫神武天皇神代草昧の蹤を継東征して中州をたいらげ四門を廓くし八方を朝せしむ王道の興治教の義實にて小創は我國の君臣億兆に至はまて尊信うにべき廟陵なり 日本紀曰神武天皇御宇七十六年三月橿原宮にて崩じ年一百二十七歳 延喜式曰陵ふかくしまる 古事紀曰年一百三十七 曾我村ふあり今入鹿宮と称に 宗我都比古神社 神名帳二代実録出

蘇我沼の原 蘇我川北にあり上は越智谷と云ふ下は飛鳥谷と云ふ蘇我臣の家地なり蘇と宗と通ひ用ふるなり 類聚國史萬葉集等に宗我と かけり 萬葉 真菅吾宗我の川原小菅の根ふ

小綱村 頃城郡あり城郭あり今高市八幡と称に 天高市神社 名我社の南ふあり今高市八幡と称に 神名帳二代実録出

一万代 たゝこもり昔ゝ人を恋ひ京の宮ふ月ふ緑く

地黄村 上野地英村ふあり 人麻呂祠 地英村ふあり倩に地あり櫻樹数株ふ人麻呂の祠あり 明神ふ勅 玉葉集 称ふ人麻呂墓ふ伝ふ ふ称ふ明神に

古人の詩苔の下すでに朽ぬとも歌はとるべきのかをんやう

寂蓮法師

金橋宮 曲川村ふあり安閑天皇の皇居の地 日本紀出

太玉命神社 忌部村ふあり 神名帳二代実録出

川俣神社 櫻村ふあり今川股八王子と称に 神名帳二代実録出

稲代坐神社（常門村小あり今和名抄の稲代祠に天神祠根成橋村小あり社前石燈籠あり建武二年と刻ス 社名帳に代実録出）

長法寺（常門村小あり寺前に石燈籠あり 朝日正和五年施入於長法寺 法器山寺 左所不詳 日本霊異記出）

菅丞相山荘（左所不詳）昌泰元年十月十五日太上天皇（宇多帝）御鷹狩に吉野の宮瀧小野に啓あり行ひ小貢數親王（清和帝第八皇子）右大将菅原朝臣（小野天神）其外六位等廿二人法皇御門より上皇寮馬ふりくく道をのゝ寺々所巡詣せしくるふ小寺性法師前駈まいりける廿二日とゝに高市郡右大将の山荘に泊一宿ふるを行ひて和奇ふ宮

けんしゝ帝王編年記に月久くる

大和名所圖會卷之五 尾